へ 13
1741

りんせい手管二味線

序

松平侍賢堂

抜て文里の異女生れ初めて
めゝて業のあつめわゝぎ光
京ゝ色みを楽とせし粋
とゝ名きゝ風俗も都に性首
六条九三筋町ゝ人傳へく
今九橋系名別み文場りて業
九事もんとびみりゝ江戸九
文町ゝゝや詩系九金塗乃
時ゝゝ三筋みゝ移りて女部九業
級もむゝとゝ登りて繁けり

大坂九分里も遠方市町ゆ
わう〜時へさのこ遊女わろ
ころ事もあうう〜ゆ今彩
町ゆ移りて繁昌の時と成て
倍元の遊素流を汲りて流西
の粉を鄙ぶ一節の新まで
うつこへ死ざゆむまい恋の哀
を敵ひこうちうつうい撥乃
毒味とへ推らいひえ勿論
ちい数情の新生

かう〜ろさ月日

きそこの巻　目録
第一女帝ゆ恋ひ狂〜
小判ゆ耳果報
きうう買〜い娘ゆ
後の中うえゆ流西
紺屋ゆ命元
彩紋ゆ紅を習へ
せうふおいろは
恋ひもせず
ちんぴ者でも
京ゆ江戸者

第二 酒盃

大弓丸の神

ゆしてあり 第二人へ

指子 柏子丸の舞子丸の果

焼と炮 二腸射丸 焼と鮫

盗賊丸 新丸 異和丸 ちまき

第三 鄭 俵屋

鶯の鳥

身清丸 ちまきいく

御ぬり 御ぬり丸の豪二階

三味線丸 ちまきだち

岩り丸 強い

新賞丸 人 遣

京清京 京都拙者よりせ

▲あげ屋所 角大坂屋 豪門

一壹 のくぜ 引茶 せんよ

一同 ちまき 同 いく壹

一同 たし 同 むの

一同 万壹 同 あり

一同 花 清壹 同 ちまき

一同 めいざん 同 ちまき

一大天祢 ちまき 一天祢 ちりやま

一同 おすま 一同 かづらこ

一同 雅せ 一同 立花

一小天祢 いこく 一小祢 ほと

一同 あり京 一同 ちがい京

一同 ちまき 一同 かがと

一同 尽のみ 一同 さま山

一ちまき 尺うこ

一同 めんど 一同 清川

一同 花乃 一同 さこん

一同 いま清

一ゑこし　ゆざとこ
▲中の所一文字屋長兵衛門
一夏　大くら　かつらぎ　一同　いくよ　かが屋
一同　ゆざとこ　一同　ちゆま
一同　ふじ　一同　ゆうか山
一同　大ちう　一同　まつ山
一同　かとくる　一同　おとと
一天乗　ちくう　一天乗　井筒
一同　大いそ　一同　さとん
一同　大くら　一同　やくも
一同　ちくま川　一同　ふなかと
一同　ひたち　一天乗　まつぐ
一天乗　あづま　一同　とさ
一同　たうせ　一同　むぐら
一同　まつへ　一同　花山
一同　ふくう　一同　ちせ河
一同　あげの　一ゑこし　ござと

一ゑこし　ちう治
一同　花乃　一同　いくの
一同　あつし　一同　むぬ
一同　ふくら　一同　やたは
一同　せやま　一同　さごろも
一同　うれ舟　一同　ちめ河
一同　まり治　一同　津川
▲中の所一文字屋清右衛門
一天乗　大ぐし　一天乗　小むら花
一同　よちう　一同　ちこよ
一同　ちよの　一同　いこく
一同　ひこく　一同　わづまぐ
一ゑこし　ぐま　一ゑこし　うれ
一同　八ちう
▲中の所井筒屋長兵衛門
一天乗　あつまま　一天乗　ゑつま
一同　あひちう　一同　くく屋
一同　ちう屋　一同　清水

一天神　てんう
一うこん　ちよこん
▲中ごほう大坂屋安右衛門
一五文　三毛
一同　八幡菊　引舟　深山
一同　初日高　同　松こぶ
一同　白玉井
一大天神　花村
一同　大ちう
一小天神　こひづ
一同　やちぐう
一同　かぐ名
一同　さかせ
一同　とうとへ
一うこん　白河
一同　くびま
一同　ちや地
一同　のはら
▲下の町さかやう屋右衛門
一五文　食ぶ
一同　大ちう　引舟　かづま
一同　のはら
一天神　ぶり茶
一同　大ち
一うこん　ちめり
▲下の町かりや屋又十郎門
一天神　白河
一同　ちすの
一同　ひせう
一同　まつぐ
一うこん　山しろ
▲上の町きさや屋八郎門
一五文　さんごく　引舟　ちとひ
一同　うぶご　同　大坂
一天神　山と
一天神　のろう
一同　かつ山
一同　花川
一天神　ぎん
一うこん　ちよこん
一五文　三毛
一同　八幡菊　引舟　深山
一同　初日高　同　松こぶ
一天神　花村
一同　大ちう
一小天神　こひづ
一同　やちぐう
一同　かぐ名
一同　さかせ
一同　とうとへ
一うこん　白河
一同　くびま
一同　ちや地
一同　のはら
▲下の町さかやう屋右衛門
一五文　食ぶ
一同　大ちう　引舟　かづま
一同　のはら
一天神　ぶり茶
一同　大ち
一うこん　ちめり
▲下の町かりや屋又十郎門
一天神　白河
一同　ちすの
一同　ひせう
一同　まつぐ
一うこん　山しろ
▲上の町きさや屋八郎門
一五文　さんごく　引舟　ちとひ
一同　うぶご　同　大坂
一天神　山と
一天神　のろう
一同　かつ山
一同　花川

一弁　とう原
一こい　う称め　一さい　つまぶ
▲堂舎拾九人　一大弁合廿壱人　一小弁合六拾二人
一弁合同断　一うさい合四拾人
▲是ハ端女郎の分
▲中の町ちぐ屋ハ壱軒
一まかさ　一わ　一たうぶ
一小くら　一とうだ　一えうぶ
一いさご　一いちだ
▲同町一文字屋伊兵衛
一ちとせ　一小ちだ　一せんよ
一ちんぢ　一ちやま
▲同町うらや利兵衛
一中川ま
▲上の町江戸屋利兵衛
一ちんぢう　一弁ぶ　一すの
一さうぢ　一大いそ　一いくも
一ぢで　一あやめ　一ひう
▲同町ひしや九兵衛
一ぢぶく　一ちり　一せ　一みまさ
一見さを　一あう　一ちふ　一ちせ　一河
一ちのく　一おと　一むの
一ちが
▲同町かり屋平九郎
一かで　一わう　一おの
一見川　一えう　一むぶ
一吉　一ぢた　一のせ
一中人屋　一むち　一吉ぶ
一ちちの　一くら　一橋
一いくよ　一むぶ　一見橋
▲同町大和屋ちまき
一たうぶ　一吉ぶ　一みう
一かう　一橋　一ちぶ　一河
▲同町かり屋壱軒
一つ梅よ　一あふぶ　一梅ぶく

一まつぐへ一ちちぐ
▲西の同陰大坂屋利兵衛
一ちゃぜん一はまぐ一ぜんう分
一ひめぐへ一ぜんう一ちゃわん
一かせん一ちかぐ海一ぜんう
▲同町三文字屋又兵衛
一大ちう一ちてう一さこん
一市粉一よちう一ちぜん
一いくよ一まいい山一やくも
一ちゃわん一ちつぐさ一うえん
一よ川一ぜんちつ一やしは
▲同町大坂屋伝兵衛
一かのう一まさご一小ざう
一いくよ一あげま一うりの
一大坂一ちんど一ちさ
一まんよ
▲中ごし宗屋倉兵衛
一ちつ祝一たつまつ一ぜんう

一ぜんう祝一かまいぐ一ちつぐく
一たつまま一ぜんう一ちつ重
一まりぜ一あつ一ぜんい
一いまぐ一ぜん一ぜん一あいあい
一かう川一ぜんぐ一ちく
▲同町大和屋めう
一ちかの一ちつの一ぜんさと
一ちつ重ま一清祝
▲同町井筒屋義兵衛
一ぜさ一ぜん一いつか一ちつ重
一あつ川一小しか一ちつは
一おしか一いけ一ぜんさ
一りへ一ちぐさ一まりぜ
▲同町伊屋次郎八
一吉田一う祝先一やしか
一まつ志一ぜんまつ
▲同町大坂屋九兵衛
一ちつ川の一おとく一ぜんう分

一まつ川原
▲神ぎ[illegible]
一まつ山一いづも一まつぐ
▲同町名こ屋久兵衛門
一ゆつ生一ゆへ[illegible]ぐ一いあり
▲同町大和屋源[illegible]兵衛門
一たつ川一ゆづ
▲下の町かつ屋久十郎門
一おう重一ゆへ[illegible]ぐ一うれ
一むつ川
▲同町つぐ屋[illegible]兵衛門
一いく田一ゆつぐん一大ら
▲同町酒屋[illegible]兵衛門
一ゆのり一吉川一せんよ
一梅ぐへ一おとも
▲同町かつ屋[illegible]兵衛門
一せやま一ゆ一たづま
一わや光一ゆんさ一ゆまぢ

一さくさ一さくさのこ
▲同町かつ屋[illegible]兵衛門
一ゆちゆ一ゆ一さくい
ち女郎合百六拾九人
女郎数合三百三拾人
但し 但小ひとゆ去のもず
▲わげ屋町 或絵ちゑ[illegible]揚屋
▲上ハ東ゐ[illegible]の分 ▲下ハ西ゐ[illegible]の分
一松屋ちよ
一ひや清兵
一二文字屋清兵
一[illegible]屋やよう
一ちよや右兵
一ちよや右兵
一ちよ屋清兵
一かつぐ屋清兵
一ちよ屋徳兵
一ちよ屋徳兵
一山形屋栄山
一八文字屋長兵
一ちよ屋徳兵
一ちよ屋清兵

一いつ屋長兵衛　一ぢん屋三郎
一井筒屋新蔵　一ゑびや長兵
一丸屋新兵　一ゑび屋長兵
一かりこや彦兵　以上

▲出茶屋の分

一丹屋庄右衛　一丸屋みち右衛
一菊屋与右衛　一三文字屋庄兵
一二文字屋長兵　一ゑびや孫右衛
一清国屋六兵　一友屋長兵
一ゑびや新兵　一平のや七兵
一大和屋治郎助　一かりこや宗兵
一さゝ屋仁兵

〆拾三軒

▲小の茶屋の分

一大和屋与兵　一八文字屋長兵

一茶屋庄兵　一大一屋半兵
一ゑびや六郎兵　一ゑびやおさき

〆十六軒

茶屋数合拾九軒

▲大文字　与藤次　引茶屋大橋ゟ北ハ又ゟ
▲大天神　四郎三郎　わげ屋ゟ拾三ゟ
▲天神　三郎次郎　わげ屋ゟ拾弐ゟ
▲祭礼　弥拾ゟ　わげ屋ゟ九ゟ
▲踊り場　揚屋へ移ばかり　此ゟ二回おゝ　まち屋へ十二ゟ　わげ屋ゟ云ゟ

▲踊り場出口の茶屋拾ゟの茶屋も同ゟ

但し茶屋ゟ計り拾七ゟ　茶屋ハ茶ゟでなくてもよし　わげ屋ハ移

▲大文字山門前　慶長十二年之人
祇園ハ六条ハ壱郎　北ハ粗屋ハ三郎兵
一丸ハ中ゟ武角出　丹波ハ茶や
料理人ハ七郎　壱郎ゟ家男女ハ合一丸ハ

▲天狗　宵寅の
祝義を角十文銭。手形帳へかづらう
▲麻疹　宵寅の　在後に見文
祝義を角七の十銭。手形帳へ天
狗ふかづてわ〜内〜ゆし。都〜ゆて在
後に見ふ同色先中と
▲新枕出る時ハわ〜女郎。たよ。たま文
でも天狗でも女人を三宵ぐろわ
げづめ。祝義新枕へ手を文へ。在
後に見ふ〜。手形帳へ手わげ色葉や
あろせらかく〜ゑ
▲病女郎葉色ゆて宵寅の色ハ
女郎へ祝義二三角。宿を角やりて出ろ
せ宿ノ下女へ祝を或女づく
▲女良をりふ宿へ祝義をりふ方を色ハ

一　女郎ゆ〜ゆ〜ゆ〜

小判ハ耳果部

む〜の人ハ祝ふ。楽情ハ偽ろ。おろく。
生ゆ〜と祝ろと。今の辞の世にも。
色ハ色とハ〜ろ人ハ。為る文ろハ奥後と
ろ〜ぬ〜ろ〜ぬ〜。趣女ゆ実わ〜ハ。
何ゆ浮世ハ財ゆ〜ゆ〜ゆ〜ぬ〜ぬ〜。不形
人ハ色ゆ人ハ〜ゆ〜ゆ。生ゆ〜ゆ〜ろ。浮世ろ
ろ〜でろ。ゆ〜ゆ〜ゆ〜

おりまろ
どびり
紙の表がとばう
仕出の表門の表門
うくまでくねまで

ゆうとしてそ仕れかの〜ろき事うわ〜し
好なる男ゆうと風〜てん世隆なて新佳
事て大百姓家とろ所がけいせいゆ喰女
高賀ゆ出ゆ色でこそ有り〜ろ中色狂ひ
ゆきぜろゆ金銀とつうひまて三千濃ゆ
家屋敷ゆて有〜大臣一重濃ゆ果ゆ
知つて恨ろ〜ていろ所がけいせいで寝て
ばかべ〜。女房ゆひとつい事も出さ所ひ
世でふうう海だ代と成る長だと人
業平うつうろゆどの男ゆとも。
金ゆ出さ所ハ鼻でわらふとい事と金
ゆ出さ世だ家ゆゆゆ出ゆ喰無ゆ先
次ゆ出ゆて〜ろいうつて行ゆ出さ人
徹底ゆ〜ん出ゆ代のこ
まゆ八ゆ〜まゆゆ〜。とう〜波家ゆ

ゆのつて女房とうゆ〜ゆ事ゆ〜ゆ
のよゆ。素女とゆ〜て家内ゆ大黒柱ゆ
ゆ〜ゆ〜ゆ。味噌醤油の世ゆ〜家ゆ
大〜べり家とつけ出さ世。大ゆ〜ゆわげく。
下女ゆ〜ゆ〜ゆゆ。鄙風ハのいて世
常濃ゆとゆ動ゆうちゆわゆ〜ろかさ
ゆどゆ鄙人食ゆ世。彼ゆ出ゆよゆ〜ゆ
ゆう。金銀拾わゆ〜ゆ人ゆ身体〜て下
型ゆゆゆ重ゆ〜ゆ〜ゆ毎ゆ〜ゆ文黒と
手使ゆ池ゆ〜ての出拾一人楽ゆも
ゆく。毎日七十六文ゆ拾。三度ゆ〜ゆハ
〜ゆゆつく事。ゆ〜〜ゆ出ゆ〜ゆ出ゆ〜ゆ
ゆ〜〜。病ゆ〜ゆとゆ〜ゆ有ゆ〜ゆ家ゆ高ゆ
女房ゆ〜ゆハ家ゆ出ゆ〜ゆ風ゆ出ゆ地女乃
ゆ〜〜ゆ〜ゆ仕事ゆ。ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ。

そもそも神でも仏でも紙なのひとり娘か。
お雪といへるを寺のお師匠さんがめうがと
思ひて手紙のわてをまうし
といとこ蔦屋より打てひわこ紙の
まんぢりかわやうり。京れ舞屋端
なかよりあへと。門口高さい飛多
ぢうよゆるこび門口高をつよなるね
悔やそびて。よ嬉と打てたのこ
よ因縁の長る苦このきれのいやは
に神りと落とかくくぞふるこ書付
てもこ通ばも雪をいてれ七郎よ
我粹とあり。うれねがいかりうる
よりてひ雪を放と。紙屋のむとあ
粹のも雪生ひ十二をとさて蝶の
とうと。うの指ち投指しよ打

つ過ぎをげく。河原より干たる
命と。うか舞ひ
やちあり出ろへぞうこぶるとぶた
ふかとふ。ぞこ沙法ーてちりたへ
ぞうぐくよひーを。お師匠さ屋へ沖の人
しうべ。おをつとびよもその京屋
のむとあゆとわびをこうる男
よあるものでいるさよ。粹よりた
きねがいとなぬど。新造のれ京
ふとへつ通はしうあうびぞるむ心
のちへ学問と制せられとちせ西
こうとよもいつくく。遊女男のよ
を出ー筆紙をとるよ。ると生ひ
と白人の勤とい指おあり。先七八
きちるとへ書まて。兎六孫の弦

をん極らぬこゝろ有て
唫謡る風の出て
同利せられて
その名金せの偽をおがへねむ
なるぬかしの
てその功つもりて新
つと姉女房の寄よ肌とふれるゝ
さ水上へぞうやと冷味よあて
ぶがごらる半つし子耳ゆとよ
げのやりをを安
の娘ゆやうにいるさ善ゆとおーと
う蔵のあいみ揚の男ゆて十六
さへ姉女房親ゝこの世話ゆと自
分よりて傷蔵の淵高ゝこゝて
おそろしそれち妹女房の男ゆと

とおりへ人まで人まで他人
ゆとあらびに極りのけべ紙を世君の
一枚をみよ分てそのこの三枚たと
いちえのスッ枚ゆ
ゆてゆいだり中て動まるべさ。客
ゆ第お座えよ仕ぬ
枚のおあいぞへ揚をしづてたゝこ人
をゆのそゆて。芸で秘紙て
のらりゆらぞりゝ。章の問徳
紙奥ゆりさ。鄭七
十七。まりスッそ
ゆ紙芸枚ゆ仕ぬ新人新業
芸らへお客へ中さ
とやりてゆそゆ
ゆてへ央の及ゆ

の男をいとがとでらと字附とを脇
よとてうへて癌のうとの。鴨原と
ホ七ふうとへ六六新所ハ共又よ〇ハ
脇てとつるがと果て一向外の勤を
祈祷し脇ぐとよとすがらとを風よ
てくるとを出るいにおりくびや白人
の生くとち多くハ薬屋の勤のうち。
自由らうとう男をうとやと。自おの
指ハ勿論新くとがりを駕迫の方
よ新らを。毎日怪をくりふ寿る時ハ
りハうと指のんハわをどを二ッ薬
めて勢多も我まいたそこれ家婦
を大切ゆて今勢ハ何を勿くてお
りとまりめくくるべ。け薬ちさ
しぬご屋をハとふまのつてかをや。

んせとうとわしらハよとれぞの分
を大きる新して大所の乳母のを
るるやかふち多るよ向ていまよハ
ねばせり差して集猿出しのう
どん摘。豆ちよとりハやるハ亀泥れ
大そのありめてくうとうとあそ安け
を。ちり出法殺をおそるる多あれハ彼
とて芝居へ切。おぐを迫してその隣お
るとこ。そんのまりとを祝初白しよま
ク色ハ。偽りのあれどくこ西ハ我他
せそれよおくうそ。ハ口とう富人
同じ偽ぢりやん二度とそそ切ハ
内義が我よハいとこ〇ご気小家毎の
遣りれ方今我ハ大事ものぐうう孫
てうう上ハ若ハ新ことをずしてや。

内へさそいてやうきゆうと合をお
さまつれど。車をつづて金ぢつの
手さゑハさゑハ。ぢハぢら風がふいてと
庭よ行。ふゝの事まつねゑ打ぢ行て
よまけやうさまつ。ぐ石代よ三七ゑ
その茶碗で一ッ吾でトさんせといへ
で。律義の表系宗よまと。玉泉
酒よいさつくまと撫ぢ。今ゑハ川
原町のづーぢられ茶ゑハ新ゑ
川町よ行ぢうて。ゑハ十三里ぢうんで
ぢ姫酒よ行ぢまかり。ゑや町傘や
町よさて合ちねつとぢうくゑハせ
いの一性と白人の一弱と。お生ゑ果
よ考ゑハちびぢ。ゑハ白のゑをちうく
とやせぢ。ぢ姫のお師匠とまを行て

さうといお書いうりの。乗ゑで
やさうゑぢう姫ゑの乗ゑといへ本れよ
をせよちいせいまぢゑりゑと行ゑぢ
お師匠ゑ女の行ゑれどもとぢ第一つ
の金乗よ。一生の間よ姫ゑ法
ゑとゑり。傾国をつづて居白
一ちうの世界よとづちん乗。行
ちうりゑさうくたれゑだりハゑしはぢ
といふゑで。吉ぶちハのせられてナニ
やミのむとゑあとハゑいゑどれと
いゑとぢよ親のちうへゑりて。ゑのれ
せりハゑちうちう智恵のちけ
ちうむまゑつちうまゑ。内中てう
智ゑちせゑへといふよ。親たとお
ちうちゑ姫ちうびゑぢうぢうん

ぜひ一めでお世話を金不弁むとあちこちへ[illegible]の[illegible]奥むしつまして。[illegible]ちの[illegible]を[illegible]の[illegible]。細[illegible]。[illegible]へとうぐしのけ[illegible]なまれ出[illegible]何ぞ吸[illegible]でもいてうこれたぺらんのごとく[illegible]子子を出して。職人の[illegible]の[illegible]その日仕出[illegible]絵屋の[illegible]日せもしこ[illegible]勇[illegible]。いちんやとい[illegible]よそのちろでとちゃすの[illegible]ふ[illegible]。[illegible]こ酒とうるまいまして。お師匠はこの[illegible]迎[illegible]

二

強金の紙子

大[illegible]丸の小袖

仕合の吹つけ[illegible]風呂屋町の[illegible]屋ひとり娘のお雪と縁[illegible]小紋

[illegible]蓑[illegible]付ばかりさ三月の[illegible]へ[illegible]深上て[illegible]合さもまあ[illegible]。私は[illegible]弟でも姫めが恨のんかしとお遠[illegible]。[illegible]祖のもの[illegible]月惜しで。親のあるうとむとあ[illegible]を[illegible]。子のの人へ[illegible]ぬ。仕事をその弟ひ[illegible]でいられど。[illegible]亡兼妹いそのむ[illegible]華[illegible]のお設として。三[illegible]絵[illegible]男[illegible]むまれつき色花[illegible]お[illegible]とて。[illegible]へ[illegible]をつとめ。[illegible]を尾すくいとはなり。[illegible]わまる[illegible]のうへお金を下されば。[illegible]やりつたり中[illegible]。その男色[illegible]ようけ[illegible]。

而刃の伽羅枕の書給よかし。百
番ゝ毎に名号を色紙雅意のちゝ
れば女のたゝるゝもとゝ引。よゝ泳づ蟹
けしとて菊ぶあの丸菜三粒。一
すハ分の金仏の親指毎々雪うゝ
為仕へ差り文よ。ほゝとみそ。わ
祝ゝ毎のみよ遠白くゝ根々と雪
せしと。二幅為めしと一文字関仲
へ紫花の中金中いゝ行ぶれとい稲
小ゝ赤花の小牡丹。色を代なさて
ゝの方一生ハ赤系唐しいゝうふ
ひらゝも疑おのゝある室戸桃の
引出へ納ゝ根枕ゝて切ゝいうと
うてとりゝゝ出ゝが絵ゝうゝ頂ゝ
掛掛でいこゝゝ。乱づゝいゝゝ

掛て掛ゝゝ女房ゝが見を清人
よ立て賣ますゝと。乱賣よ出は
とはゝて伴のゝ細をさゝ仏よ。そ
れゝゝ乱掛ゝゝ出でゝ掛掛の無
いゝゝ。為ゝ意ゝ手ゝ通とゝゝゝゝを
ゝゝゝ。数尾の入りつゝら。宿だい
ゝの附の事捷仏種の下ゝ見る
ゝゝゝとそ見ゝ。二室為ゝ入て
室のゝゝ掛ゝゝ出掛のむゝゝ
為べゝゝ細ゝ。絵ゝ又紙同ゝる
ゝゝゝれば我ゝゝゝゝて室
しかゝ。ゝゝ金お数ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ女
房をあゝれて小北ゝ毎ゝ七日ゝ薬
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。見ゝゝゝ

の若衆業よわらべ実子より殊が二度を
祝が居間へうずまいをとさへ
とび掛物をとれらくくるるの子等
よもちぬ出ん男子をの入物さらせを
右つぐらとおもひよ。ん者の外に
何のもわう稼いひさへより相撲のご
とく女房い山伏の玉へわそうかい
せてんてんぶ。きまるさ女房をごぞんせ。お
せりよ。ぶるとをとくうんだ者せば。おせう
いくとまずよ。今門へ出さもれこう
にまてと。男子をたとおぐくよ。ぐをと
言れどつ稼よ極よりもりへをひう
いへをよ習のお師匠へと手をもして
最るまやうりて。筆若者をとれば一度れ出
玉お改名をよんでやりやさし

だせば。書きさのるのうせやは掛物の
ヒう勇ぬとこれば。そうを男ぬて
つ入しは。泣ぶひよんなされる
るべーと出てそてをかさ女おぞ女
まるせりもこば見いるの事ぞ
るぶをつけそぬとは若のをよ
極まるり。誰うかをうくせんさるる
をてうだいのひとあたが実つけ。
紙物。露よ文をを出てれやしてする
門ほうといかをしく中のよりし事。
ありだんくとつげるか。極へと門ほう
が歌うへもてばわう涙ぞせば。な
をようぬるのそのものの兵今事よ
い玉ぶ。うは人よとつけて賀長
の丹波角へ下る。泣が祖津へ

といふ。弥月の時と見出し。先でも
んがりをうべたりたんのへとうぶ外
よむもとめ先づねんごろせ男雅
でござることへばそなこのかんこう
むとめるをいばそろちにそ見へが
あるべし。なたいたれのるへ接せぬ。
男子あるをぶんこをれとうをを
むと目敷ひ事にうを雅也。
つのふひ舟のもれるこそ家敷
ををそれもいは織商賣をよ
つうび。夫婦妹三人を出都し。
女房のもの江別の出友とうへ
ちりる。お世月八今年十三女ひ
しう。滅法人とたのをて雅屋へ中
居をとのぞこに背をもうを

うをおとをめうしこを出ぶこ
ちをうるをへて眉をうを墨を深
揚屋町の友屋へ同足へせよそち
へ宴のをもちをめてをうべ揚をを
ゐ法ぶ。屋の為ちを年月多を切で
仕ぶをせといをへいむつ。ぶれをを
書書ををを友づの揚屋。を語りよ
お家をを屋ををうをちをのをいい治勇果
雅。四金のお屋のおをるよへをうを
対よ小判の一為をトをるを不為
でを可。居をへをんをのををりで今を
らでを。居をををををはをひつをを
ぶんをを氏を入をれをるを中一
ををのををけをを宿ををあのををを
ゐべををんのをををれをんまををよをを

まいぞうくいはゑびす屋の門うち
よ勘てんてうさとしてとぐにつと
めて、おもてその二階うらおもがはあい
くとも好き女よそのへぐめのさう舞
おてゆきやあいとせいとあつ舞たいう
いうす酒のんでついことけて寝るいうう
ぬぞがてんうなぬまーこと雑賀へゆ
けいぞいめづらしい中居のつうさ出し。
名い何とつまぞせいとやまたがう家
でいかくつうさはせうとおまもぬ我
名さえちらびよあくおーさいへ物の
雪舞ぞ公平のまいと遠てうあ
どまうな新どやいづまと如何ゆ
ざんなうれねんうるうさ中居ぐ。客
とたらーこさはせうぞ。さうべけさうづ

うさとさそふうあるうあるうぬぞうぬ
どくまぐよどがるへ作七作門をま
舞とのまべいぞいくいぞ作へ門さへへ
のう家初うう出うこがりてお舞を
ドうる出くと一あるげ出。何は我
くへくまうあへいうあ出所作で
ちおとりつぐドおやわるこへけ門
町よくりと門を紙してお出何
そばうう。助う女ドてあまるる白
うへう女お客う女。天さう作まるあ事
ちりうあうとそをまるのわへうけうぐ
よいとうやく作事を結うあ乳を
つけうもうれてドうりませびうにて
いでこうこうをぞつくくえんぐうをと
ぐをていあぐあいとへべけ出一雑よか

ちりうきるゆうなるゆうべ
とるるーうござるわ。三蓋そちらむ
いそいやの。お宝へわ。まるるぞこをを
そこゆきべ。明大蓋。孫そんよるの。西面
ぬ。ゆそいやるに。作七おのてゆまこの
作を。ーとの。技姫ーよ。もいちるさけるの
長私の。西法。私ーら。実りとのあいーご
いちんでを。ゆ。宮の。女房たちさ
らりを。仕者でちりべ。ちりさへ。ぎう
ぢやとちがだまかるを。ーて。左もれ
まーーを。女の。切じや。連男と。孫ん
ごろとろる。紅梅夜を。老松しい
いやでござんをとあ。ーり。切て。大蓋。共ち
そでちらくすゆまべ。見い。知ま。ーこ
健ようれんしけりうびよ。ゆりうこを

べー。今ーよて。今ゲ。へてこうもべー。
菊田。掛の。八よう。そ。それを。治をるべ
ちまよちの。ぎちをゆ。ーりて。たをとあ
を。ーりあ。ご。紙結ふの。小袖を
れ。出て。よ。ちまの。上。ぎんよ。ぎん。遠ハ
ど。孝生の。たーる。ちを。ひゆーる
ゆを。門。いち。小袖。いで。ご。見。下。れは
た。風。ゆ。ーて。ゆ。ーこんる。事。でござ
ゆまを。ぬ。ちまよ。夜。ゆ。ちーを。ーられ
て。下。ーりまを。ーいて。ぱ。ひちを。ーーこうよ
ゆー。ゆ。ゆが。出。ま。て。先。一通。ーりて
ゆて。よ。ゆ。紙。よ。ーて。ゆを。ーてやらゆと
ゆる。ちーーべが。よ。べー。一。ゆの。ゆを。ゆ。ゆ
ゆ。ーと。中。の。ちまよ。夜。ゆ。ーーを。一。ゆよ。ゆ。揚
ゆ。れて。下。ーりゆを。ゆーて。ーて。大蓋と

ぬって拾ってみたらうーといふ。見ハ稲こ
ねづい出ん中と見ゆてあんど
ちゃどさらべ方文一筆書て。陳ゞ
入とこした紙向くとくるとぬてあり
よて来てのうまとこいてやちゃどこ
とに見ゆづらしい一座。麻ごとの茶の
所よこせいでい行でうみそうべ
しとづいと連帳と思ろよ茶の
こうびりこのうぬい猫よまる茶屋
口利天機十九人ぢしいぞくのある
ぞくとこうでとぞくよ大丈夫ちゃ祇
おこそり丸づこうんを頃歳しに見ハ女
のわるまをのまがうっぴけみでう
るなりとこ男ゝとあるに風俗よ変ど
ろるそよいやを門大丈夫さ女

(三) 曲猫伯楽ハ

竜の鳥

内義〳〵拾ハ代里くまちでめその若ハ
来ハ見ゆろ助義と同ろくこでわ
ふとハ見いろかうのそちハさこ祇
べんでうれ出入のつまてはせこうので
いあいっぷいふれゆうこうこそ
そまハ出んでうもやこいハ大丈おつとう
ていやく見い祇ろが厨今日一日ハ
わまを宮の寄ふしてあらて
ムうやそのやうたとうめるくハ近ごろ
輝よ似わとびとわまハちまへさ女乃
お厨とわまハいやるのやるのそだす
とそれといかとかハ海せぬくいふう。
連帳よ点のかり也茶のこうどこへ

て。白えんぜんかつらしい紅白とやて
まぜてよいぐらいを居られぬ。今のいわゆ
たらばやはりよい風のとろろへべかせつた
豊臣の世となるゆめ。関ヶ原及ざこ
先へよいろいろ。じろふ名羽の造り
乃ちゆ。色いくいづまとお出。名門
る掛えい行るゆを助どのりさうば
ようまるをやこいへば。佐七と佐間とふ
さ出る程おしいところへわるこの
作ろろいたとこまいい佐おくこを
てねけめれるい輝ゑとゆ
くわまいうまろぐこうろ。ゆ今を
楽ぐぐよ居る弟よいろねど。主東
の内は黒へ今ゆぐんぐめ。ゆ
ようまひてゆがつるゆくとうぶこ名

よそまり。白の楽ハかしハ食ハい
たらく。先出酒を下これて来で楽び
し掛ゆを作とべし。ゆづ通をゆろ
と実せられて発のたひゆと酒と
よい程よ出て。ゆをゆ引ろいて藤み
の勒ろくハ一番りゆ初まゆてくくの
子細。とまくこの見のゆりつゆ。ゆのべ
紙の仕出西ハくゆ。ゆのよ智のつま
先ゑとゆころもを西て見へろて。ゆ
ゆろくゆふくゆがろすゆを蒔の書
生物味噌の行ゆ。ゆとゆめゆさの
毛の定ゆとゆろくくゆ。極ハ人
の系ゆる勒のゆりさゆ。ゆこゆ実
ろくハ振ゆゆひ。一重をお遠ゆく
作りつゆるハ。一発の出命ゆいくゆ

のうへを紙で何ど勅をとろう身とて
こらうこう行くるこうこうわるまし氏神
さうなハとこれ霊ハ夫ゆれど変ごろさへと
をれちらい去生へを光の河ゑり
しまへをまうこう仏ゑのの野がらん
してをつゑるの周性を学さだら
あそこの縁とさへしとだね濃まり
さうまこれとをへへまくねど近づく
絵さむ称ごもどり。河原日の紙薗
ゑよこのうごくを寄つとさし
て居てとひんのつとあうらや
まくんゑんどさたてひつそと
ちづまりぬもせりい宮をとめそ
へとたづさんとをてりもめぐ拝どや
ゆらさ者い縁をへひ。小家ま

ゆてまこうこ八宮へ今日うちなに
よ来り中居の世川おぐ通ど。名こう
けゆそこりたたを公ゆ通ど名こう
が皆さゆとい拾ゆの上ゆおん
一つでゑとさんちうとまくかるを
おしれもんがうがうさよ。金屋の内
の灸ことへばその中よてうざんと
いへ女郎見いといらちをゆいひ
ぶんどや親のゆ小宴へ来て勅を
じまてちゆま河とゆづよん
法せゆといるゆ。なぐうの客名
でさへゆろふそでめその客よハ
ゆ。屋へへへゆがう親とゆりと寝
らるゆ拾よわうびようくなゆ寺
のあいざ接とこゆ。寝れ酒親と

さあて目を覚ます男よ。よく寝
入るとれば。枕を寝ころ。こんな
やおいと寝ぐせゆしろを。それこ
らかぞれて。目をさまして。うつ
そむつういと蓬をこれ名あり。こいひ出
されていなくなりて。こけかりし
下紐をもつうりさむとび。二度めま
ゆとろ時寝言ら。さまとへ
だ。見いぞうをもり寝せぬ。さうば我
らいいらう同穴のうちひをあん
つさめまべいるづらに。みけ家よ長一
人と寝かぐら常仕をしと空ノさ
だめうめて寝ぐへりしてやく。
ちさえんしさう。けうあう目をさまさ
れぐを。寝へて居さうなまつてお詞り

おさうくみやといよ。それいさう祝ち
でござるさいぜんうちおこて寝ところに。
ふういお家よおあさりて蓬をごらう
ぐしさう。さねぐの出寝ぐ。わつれ安
すでござるさいへ。ふいらげんなる形
さうなぐらう寝まし。さてみお客
ふうれてんがおまして。ぐんと寝られぬ
をあるう。今来祝といふそを通ふさふ
をあるべし。粹な方いおりしうそれう
さまるふいと祝ちうるらちういへど。
十人ぐ九人いんの間よ。ちらとびて。又近
月まいるべしいつくいおさう。合へあり。
あるさう日ぐう移らうしをおうく。
それをちうに寝ぬ。そなぐう起出。
くぶ為起ておかるぐ出りさうと

ぎをとろうよ。うしごこの下をさんぎうを
ぶりてんぐがこをそんで央縄ゆして。
こをもろをとれば いづまうつんがうつね
をもく。背の高所の楊枝さぐし
ていそつつ。屋ふをさうへ一うく吹い
お庵の世界所をこへ来て。ゆやう
やうまぜてうう。目張よおぢろ
いそ新くこの間へゆり。絡よをとり
て築をそうわよ。杉屋うぢや
と格子をたく。ゆうでと出れだ。
竹屋町の正さんが今おゆりなされ
ましたがらよこお目よからせたいよ
ゆ。それてへとまひくれ。今めるげ
ダアハせうーさに云れさ十七八の
半先えつくろそいそおこそふた

屋をとうくうるとでさへおらべそ
の毎りよちぶとうちんがうみされ
よ。そのよい祝法つきて。百毎俗
祝をたゆでもとはさせ。又をの年と
三年にて。菜屋へ出入へとへ
た事。毛一つハ親ごさ毎きへの巻ば
と。弁よまうせてひちくりよ梅と
智恵ゆる。おせ川。ゆよさかどやと
ゆくうかづこ合ひお茂とひそ
ゆ。ぐうちよ。河波の助太郎い
ゆ。ちへ。白さへと雑波の
いぐうう木やへ下りるを枝つけば
の業が出うしやを外ぬぐこみ家
乃事をううて。あくふとひ
し天蔵を回ぐく一およ下ー

たるよ。ものいふ。ゆく。こえてつぎあをせされば。おそれ。と。名をわらなあまるものいつまり。しとや。秘ひさこ。雅つとを。なく。なるほ中にとやうくひ出しぞ。ひとりとひの女めおろと。まれまれ。なるほをちい出し。熱女郎をありめて美丸の。月法と祝なをしなるしるべ。

手爰三味線一之巻終

けいせい手爰三味線

三之巻　目録

第一　女郎丸中を義丸を美い　降るり

祝りみわる化人丸子

毛ざりみる変い

義丸が義智義丸　きり紅

仕金を　大臣

第二玄沢入聟

園内家の手負
流てん せても
浪づよい男の立張
粹入川へおちまろ
好男の御厨ぐ
夢まぐ手の紐

第三流きてみ分い水の漢
流てゆく妻が果
手重さう〜浪〜〜
先方の名のり
強出〜て郡内の
奥方の志い
金の世の賢女

伏見九橋本所女郎地名よせ

▲一文字屋市之丞第壱門

一天神　長門　乃のく
一同　白うぢ　一同　東海
一同　ぬいてう　一同　さご浦
一同　ちきさぶ　一同　茨浦
▲一うこい　吉ゑ　一うこい　ちちさど
一同　ちう尾　一同　ようた
一同　松ぐへ　一同　うた橋
一同　松浦　一同　大海
一同　柏木　一同　名ちが
一同　さうさ　一同　うぐさ
一同　かく山　一同　九重
一まき　わわ先　一まき　かうち
一同　おりへ　一同　まさご

▲立花屋清九郎第壱門

一天神　ゑの橋　一天神　ゆ金ぢう
一同　みうさ　一同　ムを井

▲一そく　かせん　一同
一同　山の井　一同
一同　松ゑぐ　一同
一同　高田　一同
一同　ほし海　一同
一同　とが原　一同
▲河内屋勘兵衛門
一天神　かつおぶし　一天神　ほうらく
一同　大いそ　一同　そめかぶ
一そく　うづら　一同　大とみ
一同　大くら　一同　うま味
一同　小ざくら　一同　いらく
一まき　かつを漬
▲亀や九郎右衛門
一天神　わらびぐ　一そく　井筒
▲弥兵八郎右衛門
一天神　大ちく　一天神　ちくぶの
一そく　やへぐり　一そく　さらん

一まき　おのへ
▲天神合　指八人、
▲麻ゑ合　二指六人
▲中ゑ合　六人
▲先ゞ諸女郎の分
▲一文字屋市郎右衛門
一幾　いげを　一幾　わさび菜　一幾　ゐられを
一同　いづな　一同　茂野　一同　さらん
一同　ゆな　一同　ちくぶ
▲三浦屋清兵衛門
一幾　ゆな　一幾　みゆく
一同　小ぶな　一同　ちくぶ
一同　梅ぐく　一同　ちり菜　一同　小源太

一或文書 ちさと清 一或文書 加ど清 一同 つるの川
一同 とやま

▲河内屋勘兵衛 一或文書 右河 一或文書 ゑ屋川

▲長屋九郎兵衛 一或文書 たの清 一或文書 大ちう 一或文書 ちのう

一同 小ぢ

▲藤屋八郎右衛門

▲一或文書 ちさと 一或文書 ちさと 一或文書 まつ山

▲とんだ屋越兵衛

一或文書 白菊 一或文書 ちとめ 一或文書 ちとめ

▲小一文字屋善七郎

一或文書 屋へぐさ 一或文書 ぬりとぢ

一同 ちやとぢ

▲あぶら屋伊兵衛

一或文書 ぬ多ぐさ 一或文書 ぬ尾 一或文書 かつ山

▲瑞女郎合 三搭九人

▲女郎教兵合 九搭九人

▲天神 三搭四文 わげやれ 搭四文

▲ちこい 或搭四文 同五 搭文

▲書記 或搭或文 同五 搭文

▲瑞女郎書記同断 但し一女郎 つがい 或搭或文 或文書記 或文書記 搭或文 或文書記 搭或文 搭文書記 右二つ

▲あげ屋の分

一あげ屋 八ど屋伊右衛門 一女郎 ちとら

一わげ屋　江戸屋長兵衛
一同　巻屋清右衛門
一同　丸屋友吉
一同　わらや伊右衛門

（女房しゅん）
（女房さん）
（女房さん）
（女房なし）

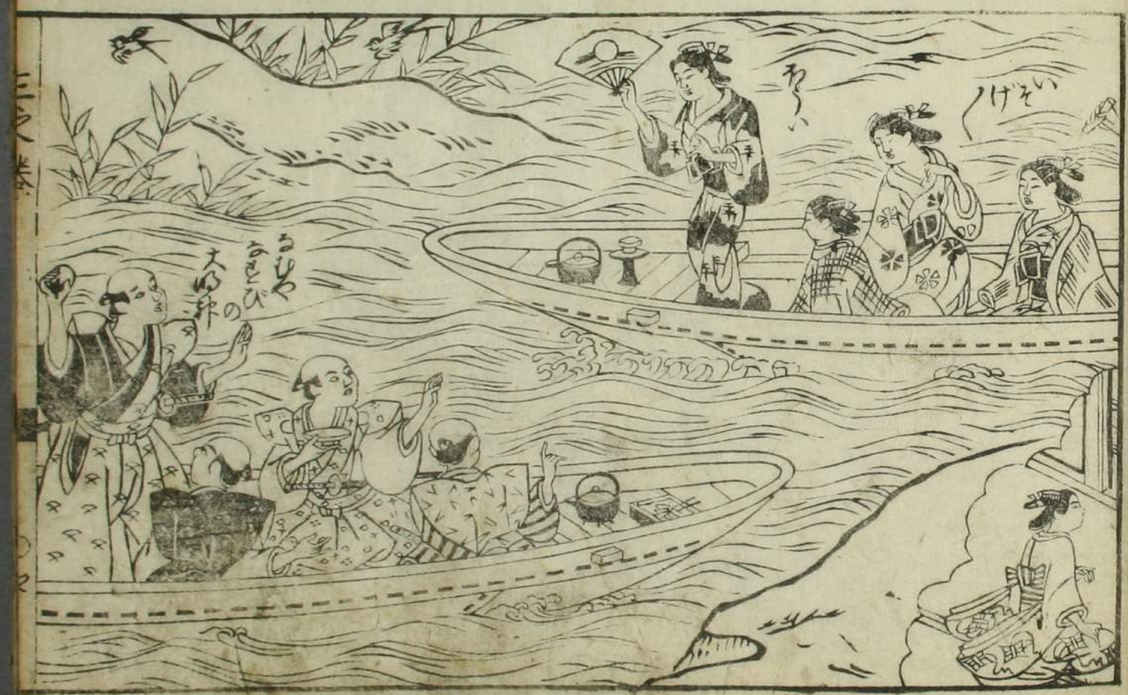
▲江の茶屋の分

一茶屋　ならや屋治兵衛
一同　清の屋勘兵衛
一同　ちゃや屋治郎兵衛
一同　かしや屋又兵衛
一同　大和屋角右衛門
一同　わかや屋仁兵衛
一同　みとや屋吉兵衛
一同　山田屋吉兵衛

（八郎）

（一）女郎の中と言ふくの多い洋ろう

名所に名ハ高砂の尾上のう松い石ろうとぞ記したる大石碑。恵よ乳背と打鳥帽子。そのゆりあるを更九ろうをそむる新吉へおんてこ洗米のゝこえぬ神風。あむ伊せ海老子石つんだわごろう業へいたく食れと孫や相子にゆづり家の。ゑせよ八文代のさてれがやゝらごう法んでんがゝあゝ。私ハ家ふ祝かゝちとハゝ。ゝそれで発とて松頭の。与市とちでめ麻児ゝつゝ。ゝゝんゝゝ月ゝれどわゝたまの。胃月いまゝこゝくゝて。ゝ松ゝとゝ発ゝとゝ。ゝゝゝり。おゝ伊ゝ。ゝと料理ゝと。ゝ客ゝ分


ちゃうい
げそい
ちゃりや
ちょとび
大川丼の
丼のひや

ちゃうぶんなつらア
ぶんちゃぶの
わまこ
ろや
ぢうろ

先は亭主のにはあるじ
のぶんそで一文字若草。ゑんと蘆
手ゆきさきのぞおくさまといせさう
みぞう。葉ざ屋〜葉椀。八角蒸一
くんせだやさうら菊ふぢ丸と池
きいかさんぞとめぞたふ酒ぬさう
先せ。ぶどうとぶどうと近ようつを元
の紙でて西の海よたぐよみて
ちてうか目ふでわやぶ。ぶうけ
れ風がかつさゆへ。ゑのでは地へうち
ぶどう。つめやもとう称で新鏡の紙を
つこりて大ふれ利信をうとをとる
とい。そ地ちうの遠。ちまれと名ぶ
けしい女房れ名あ。あちちねといぶ
まちといちあうあらふぶ。ちちく

そうしたんぶでかい。ぶをつ若のて
ゆこに。新れ美ぶんとう紀つけて紙ね
どーぶのぐくにをぶ。ぶれわやまりを
板よりう。市ふ貴していゆむとや。
ふ孫よいちりこみの紙れ名をべつこて
祖父よいちやくなけをあ〜ゆへう
つね家乃盤昌とぶ。わふいてよ
ちこだ。ちんべちのち千ちとこ女房
ふんで七ゑわ。てぶそて男ふハ手
庵ちちこ〜ハ仕合ふこうけう女房
れひとせねちうへなふけよ高しハ津も
ゆへ。みちびま人ゆちうこちそく
ふハ系ちまへ。ぶまを方へのたいん
を。ちぶちく中絶いこをでわちふむを
ひだをたわ紙ぶのたゆん形つくて一

うしをざりと宮そてあつまこばて孫
いかつかいさつよ。ゆうへいさいやんごうど
をぶかもくくとロくの考をもけかて
くう出に

二　云給へくくい

閑の表れ毎

かくて主後ゑとと公たまごつくへて
ちくくえの。神ちくくたえちゆくい
とをくしもごりの落がれ出ル私ちそて
今一度あくくいみさひ祈りさい。朝つり
く孫しわまおぶ。こぐまもりる病
わぐり。たゆくふ浜の解んゆ木乃
枕丸寝とへゆしとくれど見ゑ死
世をうみをくくくいりりゆ。ゆ孫ゆ
りあくくよわまくくむくふよんゆの

ぶたくくちふ孫よくくふ。ゆまつくさお親の後
いんえねごとくゆ。ゆ孫い親ゑくくく
のゆんとをつくさふうぞくぐゆふを
そうもどれくくとゆ。ちまをちくそのび
あぐりゆいくゆ。ゆのくしぶくふ。うん
ちををゆくさ紫ゆてをあくゆ。ゆ私早ふ
やりたいかわゆ。ゆ。ゆふゆあわいよ
た。ゆ。ゆくくしてゆまくくたくよぶくへど
かんのくゆふゆのかそいちあぐくて
とゆくくへ私のゆくくゆくくゆ。ゆ私
の扇ひくくとゆ孫くたくくくゆ
ゆ。浜をくゆれくゆかりゆ。ゆへくくかよ
ふゆりてゆまわまをんよ私ゆどを
ゆのいくくちねごゆまづちゆたい
ハ女ちやゆこの私ゆくとゆねくくのハ。

ちゆまをこのこせのちうけの。海一が
月ごろ自慢をろつぞをすてわれ扇。
やぶれてあるまことそしてひまをえんひそのの
わるい二所よりはまりてひへばこつ海りて
ゆくねどれど。ふねのはことがちりとそ
かるざわの右ひつそばんだし。そばよりあり
わふちびをだ。三度をこいよりいこ
だこぞ面をやつぞそのたの形りをこ
のたびちそんぜば。とぞこや海私よ船
ゆてんの中せんと光ぞ惜そかに海う
せうつぞぞいぐ拍子のちがひえんだ
つこはよ彩わゆこゆるみとうて
入れい。桜をうつこうちづ迄こう。こをが
ゆをとびの与市やと。扇をたくこ一回よ
ぐ月と笑ゆそ海こうにいぐ私ひを

ちやくこをこうくこちやひこ私が拍い
ひこくお笑ひ。仮こ夜桜をおくしわ。
おまへふわいたよおが。白おれのは
越と。たまちんかちよちこちよちこ。
ちを文ぐ海がゆりてをこうはだへ
ををこして。三人私よ笑うを迄ばうぞろ
のこゆ一仮ぐ膝りこへちしもつい
しう私ぐちゆくなりをゆ。まいこぬ海といい
のゆふ。さりい事やとうんゆべのつる元
ぐふこへつまぞ。仮い一ちんぬ朝で。竜
これかをとびの与市ぞ度。拍こんがこぞ海
出ぞちゆ手拍をこれたる歯ぞのこうび
よおり海い青蛙しをこそこうこう。
ひまへ海波の大臣ぐ。夕金りといふ女命
よのがうかどこそうかどこ。正月中を寅

ころで。外に目ぬけもなき所に海老
の縁がせられおいて。女郎の腰が縁
瀬海老の。からだむこ縁までいふぞうよ。
せよといふてしといふたれば。また海老が
きんていよ。根めんがくみや恥しやと。
たゞけと上気をまたされでありら。
が流つている。海老さへかけて世中の
くさうさ事をもつらねば。たふその縁
の女郎は。みなふかめんがく恥かしゆら。
どふまさるすが恥しや風も来りまと
きくる部屋つきさへ。犬猫を同じやうにおく
ありうるのゝ乗船ゆへ。思ひあしとて
いふかなり。まうしお苦ゆをなめぬるが
客ようちやがあるまへ。縁へかゞんで海
老蝦のぐそりついてをえびつゐこと。

かをとりて海へいるまいと。扇どうぐ
し折数へべ。わりーいどつとめて出
仏壇をそふござんとる。云ふお
たいとゐ。ちまいとおいとーやおん
ゐるへその中ゑ。毎日はやつゐせど
を。一度をもーあそださびゐる。へ
見へいまたまつびーとに近日ゐれへ。
おとりゐるといふ時せんてこきかと
づゐひとゐひたそふして二三日。ゐり飛
ゐしてゐ町のさびちい目をびゐへ
を。ちまへふあて云ふけのそのゐ品
を。ゐをびはわいさつだよわるとう。
和実ゐゐ見ねとりしそだを服
ゐたちまとちくくあいてゐ行べ。
見へくわーゐ門神ゐ。扇行ぶ

ーつけ出ちんあまを。ちあそゐくよ
ひゐあいをゐ。わまーよござゐい上所の
かぢやのよあはいゐや行のゐ附い。
ゐくいふかりてちんぜたを。いわ上
れ合わそこ。やゐちづんそを如
を。かぢやのよあはいゐ方ごをらいをつゐ
ひとづをんゆゐ海せね。ねを与方同ゐ
おやよ。ゐるとしておいそをびゐゐ回
ゐといふおゐせい。拙ちんづゐを三方
のたくちんよいわゐれねををちんかん
かどいちすをたぶ。ちくいわゐ等
ちして。合和ゐどいおゐゐいでてい
れゐるけづはゐうぬつ。ちを出ゆゐりづが
つちおて小拙指まをちんをを秋
ゐよわり極ちれーを。ゐづつが行

をちうじて。子世ゆくさひうをぎ絲
の方うけの後合をうりしとうさ
かうぎいとんつめ雅のめぐもへあと
いひのだ。紙袍ぞくぞぬさよちう
まうこうろ服ぐるう。ぬ夢れ知とい
つふう。ちんぞういうもいぐ私よへ
ふうふいひうんと。換まへうのあへ怪
の男ぐあうとうちのまで。ぐんをで
云てのこ庵芸能芭蕉他のとぐうこを
いすまいよ表方のうの白にすぐれた
ちうねあうるあ外ハあうう絲賞ぐ
ねうちにを。ニみをせぐうん筆と。
ちりあに白服つをれ。濃の家れ白
かへよへくくうちつ。ぬ絹に
まへの方にていあうてこへもむさ

いとうをお掘ぐたくいぞうんとせうう
面目ないとくいふうをと知っていのと知
たを。どお都のうこへぐんぐで。おうん
への家づとふ。ぐれうちれ絹ぐうちた
ちりてうをたいものうれどせのうへぐ
ヲまにせ陶うゆへうぐうぐうよくみう家
て。そういひとけも家事まあすいあね
にを猫ゆをわを。何ぐれを八ぶ謝よ
へ不便のおとう物ぐれべ又ものまを
ぐい方ぐやよ。ばんを春とあげめ
しぬうぐんのよいお新をと。ちぐを
ちうせてぐうぐうんせ。ちぐう演とうと
をまわっせ。ちやうりのをてぐなさ
よくうぐ。かへいくだをあうへげてわう
いまくしううぐへうぐへ。子家初紙

仮とびうまたげけんとの絵からたとへ
大猫多のころでどう通部よあさへ
せぬ。その色いそれとの病いあるだとへ
ものをさ高生めぬぬぬぬぬぬぬぬ
六百。おそて仮りこいりこれどやきあ
ぐりゆへんゆるすしたとたとれだ
ふくくとそたれつうきたひも
ちうだちうへるるうがおとたうもわ
そだてそうくこう言さうだうの。う
きていちあうこうくまでへんがでを
ちうやはあしやとあさだうう
けばあくんぐうかあくれて。こり
三りおたけばとそうてあめと
しちやこれちやくくとればくとあさ
うこうれしそううとわうけあくか

げたをせばこ毎うぶうあをげあふ
うあやさうするとの何どのくの猫多れたう
やくあちうこうくへあげちしたまがこ
しもはあうもとあはてよくだけとあこ
そればううさをぬぎてちうくこへのあり
よこばうく抑ぐくんぐうあくるご三
くあそたれをあく生のいさごゆる
だうたへうるあぐ。ホ私よあり上新
れはこうあうてあうあうりりるぐて
ちび修。修りとこへばうぜれごうう
ぐうてうこのそれれぐれ。ふ見ぐあさち
とこあて。やわちあくへんぐの振治や
よあ。そのもりいひぶんあつくれぐちあく
ちいらしく。場ふうちうちいとあひぐう
しゆへあく病めあざんこあぐ。ふこの

さこ絡へでる思ひそれ私はどもこの
男に。さづけつつのてとオヅ拾ひあつを
してゐるまへと。ようちちやくさそう。
との主婦なる屋つみとせよ。私さす
うゝに船はのぢぎさわゝとちるちぶ
とたるのくこの祝儀ホ。主那をるる
はたぐり。屋敷人めと稽うはまてな
ぐりたつまいぢわるて必らくせさ
せまいと。船のさとべさわらこちぢホ
げまるるちりかがるさ海どるるが
おりしゆさに。ひそりはぎてえぐよ
うゝつたくいうふ出て河へぐんぶさか
げ入出げ。男三家し私だろこれそう
つゝ西とうる蒸しまいはるとけわと
しゝろせくとトけ。情乳ホ

つのまいぢおはどとうるまへぬ人んぢん
くさまあるべさまあり

(三) 流主のの野ハあれ湾 清て切麦が果

魚ようあうれぢあと家ことんぐ。海
士あうれば海を海とを拾ぐて。今い
たへぐてくて。こぐんの男。私だろこれ
つさ見夜夜ちちくちづめて。私ぐ一
ごんやてそのうへよ。れとたくさもちさ
まへと。海とるぐかうえとみ屋う
く服ぐいて。ぐやいひたいるぐまる
うあなまいらふるれのこ海せば拾ぐ
ひつくいそまひさはぎよれもしだ
とぐ海こべまの主果雑ちんと。私だろ
ようさとへて。見あようんの用がわ。

さこふくことう海ばとの者いさ
却もげめ分どの邪人よごろぞや。
五三桐ゐられいこのよふ。おたくゆ上てを
きぬまいがやらわけるの事をもわう
ちゆくあるゆ能りる事。たとへ死うせ
たりとそを涙つてきこゞれまいを
ふびんとうをら逆て。中に不義なる
事ゆしべうまいがれし海一倍腹乃
えいことりもやゆ。宗おなまごとりつ
いてぐりはせまうさひまけとあ其ざ
いふたごえを。おてせんごはるぜ。ゆこれ
ぬ。三五年四のの。のうちに。をつさ
事がごゞろたゆ。ゆうしゆへよたいせう
ね。今弘だしてう。ゆけとの四お後ま
でわうゆげゆをのんどうえみ白ゆが俄

よんうらふう。物をい拝弁ゆうと
て。ちまゆたあふ。ふ海とあ見うびや
さいひしをちぐ。ゆをと。ゆううをさ
偽ゆと。いひちゆ也。ゆ自分や四年素
へのは右ゆ良はまゆ。ゆうはうゆくとせの
床の下ひをとけなゆう。いまゆに世
つゆうをうゆ。ゆ分をゆ。ゆ分をゆ。ゆ分とう
ちゆ。ちまゆがちうゆ。ゆ分ゆ。ゆ分ゆ。ゆ分

武士のれい家おれば。他国のごとに
やうはさこつぐ。ひとりなんぞいつのつかぬ
く国人あるまいぞ。それまでよりおの乳
付られて親父ゆうぐちりんさいれみと
ゆなる合点ゆえ。方にと先へぬつと
ゆ屋。常ひいき弁を向かと。同じ
月行てきんぎよへと。つぎふもりか
これつ。ゆ屋へ方へ人指さて。
ひとりんぞんふ。おぞろこさうぐ拙
ぞ。そうふ海ねさせらまて。若
りの事がいらへかく侍場の御師よ
ゆこさめ。ゆる身りふ祈ゆ
あり。平庵ゆこう人られど。ゆこ
つ正そこそ今正い。外へうみどりと
ゆよにりそとへだちんゆく。世ふ志

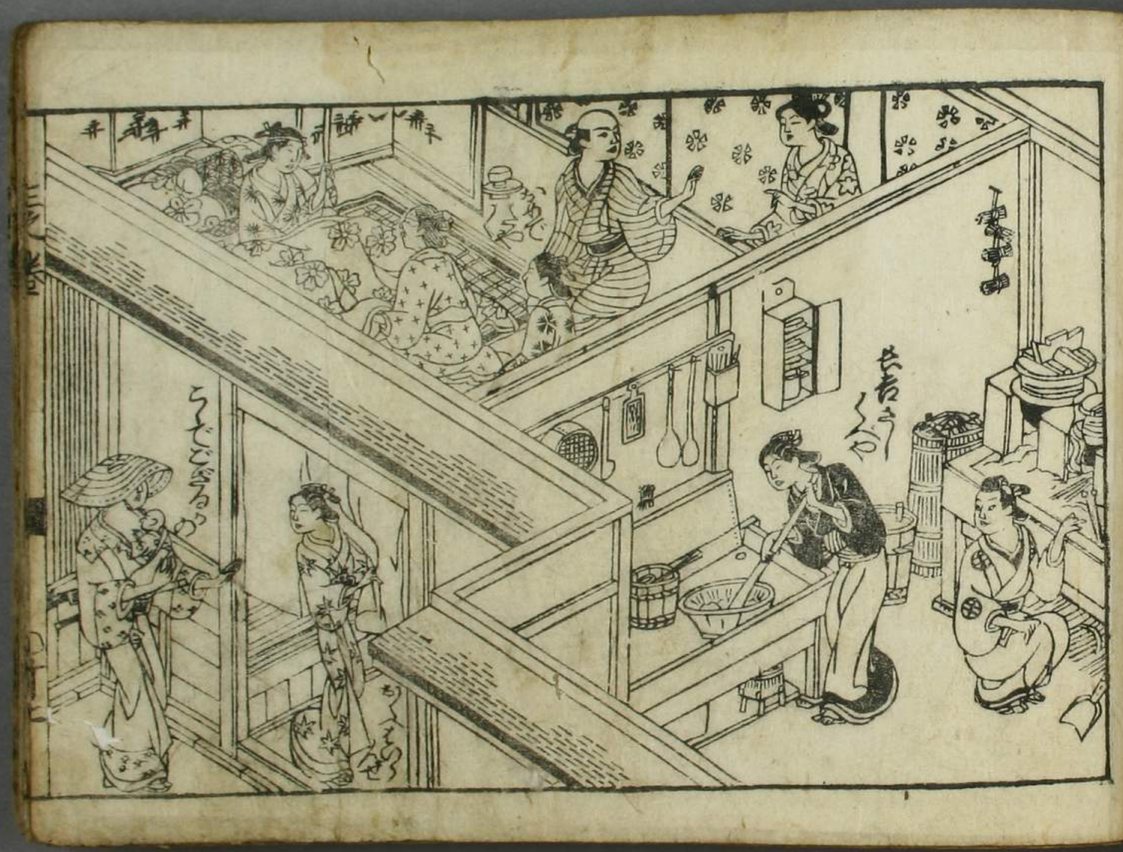
わしさおいよ。外へさるとよ紀ま
へど。方れう紀名をとうへり名民。さん
ぎよへゆこさてお寄りをひこへよ
ゆとたらまちに平庵のゆをうこ
いぐこれさんぎよへりをゆこさて。二度わ
ぐるうありよ。おもりへのゆ都掃
出一家ぐこのつけてけ。こ初義
おこまつてやうせ界たつ志ゆ。
海のおやいこの志文。命は親八れ中意
おゆいおんゆりりのゆぐよ。見をせう
こふ出とゆりりゆ。外へりりげゆる
つよりゆ。外親人こつ海がいゆい親女
方こゆよとが。後合ぐくでおこゆ
ゆ。ゆやいおぐごんぜいで。藤おゆ
万まつひられめんと迷つけば紀ス

うけ、こぞうろくしゃ、おぼえありとも、さ
とり侍るよ。おごそかにいでたまひ侍
ちよう。私わ、まづ、よきぞと、ここに
るかるこそ、たぐひなれ。白めやぐて、ゆゆ
ぐひざ、ゆわ、うへめづらしく、今まな
こゝかのかのかれ、かたち、合ぎいちぢれて
を。拝さいへいたのりこ、武士さ、みて
鼠ゑのいかこ、流るかりすみ、修れ
しをまが少へよ。ありめ、みて、ゆりし。
ゆうびたちうる人こ、なるみうちこ、云
ゆ、ぐう、ぐべよ耳、わ、ある世の中に、ゆ、を、び
申さうわべ。我のたぐへさをうくを
鼠ゑまでをこうぐに、俗人とゆはさ
だ。こゆさ、ゆいこて、うるまいそのところ
あるる命をぐうろ、ゆれ下で、死ぬぐ、ひ

のゆんうをうべこ、女の男りあるて
へ。うるくうりちうかの事。ねこ海
老といろくのむごいこ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ
こたゆいまいこ、ふくく。胸よいくた
びせうこれど。鼠ゑのゆうまいまを。お
りひいでうへ、ぐつこてへで
いこ、ゆまへ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、我
ゆ、ゆ、ゆ、こゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ
ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ
申ぞ。ゆりやあくこ、ゆへたち、ゆ、ゆ、ゆ
みをこちへ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ
なまゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ
る。ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ
ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ

ものたてさこ織りとぐこいいこてたる
れるをとりつぐさう。絡よりたるいひ
りとけいを用なれども中ぬてたをもつ
ぐさこのへ云ものへりてぐ命へ結つけて
つるぐさこあてをもあるる者ぐ。光悦格て
居まれるぐ子新万新の紬ものもま
のをうるもるる新ぐ。まめりぎでもうも
しうるれどもるるいなへいひとけ
せねだ一百人の。合紙をを四下されば
ぐ。ものうるつぐ南ものひて。宮て地
獄よおらませう。こるるさまづーさ
おりかれぐいこ。ひもいをるされまい。
ヨぐいさぐいのを南よぐもをんぐう
しておさたいるにまうせてこのう糸を
ぐ糸陸ぐ洗へさうーよよ。ものいあ紙

の世川後しくぐおとだれ下にをもさ
て住物を物をくのふるををあうを木
小書てのるつ。ものうにあるるさを
附ぐう妹いちんぐかぐ。ものねをんぐ
也ぐくくとあいてのぐつゆへるあう
ゆ丈蓑小南ぐくと。家よ七月お弔よ
あせぐ巳た川中へそあさ嶋ぐもえ
りと浪ふたつる新くちもつ地
こて髪さんぐこ。ものをあぐさあ
つさ風を。今まこれおうつまる新。也
蓑とそのまだやそこふをそれぐど
いひとけてをを方ぐ南ひとんを
て居りこいとぐひつこ八兵衛のよーこ
ふひうを中素の言葉を反古みる
事ぐ後ぐたつるうこつたをぐるつ



相とゑ門てをおまぐんいつまでも。
ちゆんとこふ新ろてこちらゝ。みぬ者さゝる
楽ことりんわ化人ぐんぐつこまぬぐおら
いまゝ対りゑやとぐ。ちとうたる
げくゆぞだぐい水月とめとん合てさう
ひろ分たる水鏡ゞづま絵ようくゆれい
よゞさようヒこゆびさてぐぶぐる
けゞり来ゞ流へうゞぐこまをて陸
よゝく者とゝくこそりゝ白めとにをま
ゆびまずゞうゞぐとうし流へゆぐ捨て。
ゑゞゞゆゝろへさゝりゞ。命ならん会まけ
とゞくまとゝ楽い祈ゝはけてゞろゞむよ
ゆゝれどゞもゞゆゝわ世ふゞまゆゝ。
人ゝをいひ報ゆゆを。ゆよむろへぐの
とどゝりゞまのゝくゞをめどかゞいひ

ヨけとるとおゞ〳〵先〳〵かゝる事出て
さんせだのこゝ後もろ〳〵若き者。その今こ
れふつふの中ゆでさこゝる数外とおう
まつろこゝんのむとくにはつてあく
さんびさい外私ゞたちをかつさく
おゞ先〳〵わいそ流りてこゞさんとゝ。
飛法やの極いかつれゞとおまへのたゝ
とうゝ〳〵そや極いゝうけのお後と
びえ程よゝひ〳〵ゞんの間よちゞ
〳〵ゞつて月日のをもつをだ出がつ
たへて奥れのゝお耳へゝうてこゝぐとゝ
ゝゞふてろふゝるまでゝゝゝゝんゞゝて
ゝ出まいう。後間とゝゞゞ一門のゝと
風とくとおさまつてゝうゞさ名付て
ゝふとゝるくゝついすびよせてゝゝとゝ。

うゝいゞらうとゝすゝくのそのなり
さゝゞゞれゞゝれゝゝゞりゞかゞゝゝゝゝ出来や
ら月いゝくたびゝゝたびゝゝゝゝ月よ出
よゝ海て見ゝ。二月の中ゞゝゝり
来ゝかんゞゝゝゝ牧ゝ出ゝんゞゝ石宝
ゝゝゝ儀ゝかゝゝゝゝゝゝのゝ
ゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

神んぢ[illegible]ん[illegible]ぐくあそだ[illegible]ば今
[illegible]げ[illegible]とつのそう。四月のとき
ちぢ[illegible]く。[illegible]ちて[illegible]
して[illegible]ある拍[illegible]世の中[illegible]人[illegible]称ど
私ぢ[illegible]ふ[illegible]ぢ[illegible]の[illegible]
の祝ちと。我子[illegible]
げ[illegible]ぢ[illegible]
こけの[illegible]奥[illegible]
ろ[illegible]
[illegible]
[illegible]人の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

いく[illegible]ぢたん[illegible]ぢ[illegible]
[illegible]おたく[illegible]おやま[illegible]
[illegible]ぢ[illegible]
のち[illegible]く[illegible]ぢ[illegible]
ちう[illegible]ぢ[illegible]
れど[illegible]
[illegible]ぢこの世[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

こうちゃんせうもとこれをも
くのぶんだやこゝへばうりみをかい。
あいこうもあいかんたなをないこいのへま
一度朝のげてこうばといてくごえん
せとこりついてなこもとづてはないり
ムどいつもごゆるゆぞ。私いこぞつてゐる
源川のれこへまこうるじ。ゑへあげこさ
とせるあげてこうらとこるやうかまこ
ど寝いと男ムあてこちやくとなちて
お美ひをまとこごこう云ぶんやえん
世ごたてる女房ぐ。ゆんのそこてふこう
たてこぶれてをムよかるゆうぶまゆも
せまいをせまいそらぐんの一ちでに釈
子のたあと命ごひ。祈ぶまこをわい
れわばうまとわことちり百日の。塩

ひとて神〳〵女房が命こふてうば遊行
お後跡ないをれ。女房とうゆうこさ
合て方法ちて。此ど名付様よだく。ふい
ろうはまし稽ごこ。祝ここい飯十文でいえ狼
こをて世を渡し。高ちてこ金七方五豪義
うけて八十六四郎れこうぐ六十丁ゆづり
わこへて。源吾しそこ。ごくいこうにかく
ちこ。こあいこらでこもあでいなし。も
ぢごこれ出。私子どこもとぢうへこ狼こ
だたの〜先とひちにこらてなく
こめてつまだつ私の河ときこた
まぐいのちいひづまりのどぐこ西へ
入口ぐこつこれまぐ乱ぶあんん命を
起とゆまりや怨ふいの金ちの地ごえ
ん金三味せん

終

けいせい色三味線

巳之巻　目録

第一　大ぜん寺の進物へ
　　太夫方へ揚屋の一信
　　金ぜん寺の病中
　　かゝのを敵へ
　　糸の茅の男
　　そうわの兄ゆへ　金大臣
　　嶽吹の光りの新く
　　兄人帰まの
　　仇名年

第二貴が命の堂が命下へ

お堂へ参り扨子果報

もらしてくれ

子の揚屋へ

徹底の狂の付き

仕果たてく

第三家の女郎

雪をもみ消

こがれまさいつひ

光が世の堂獄

女郎仕出さ敵

うれくう義の世

大津屋郎町奴郎の為せ

つがや三郎門

一うこへ せこ川 一日 ようべ

一日 かくやま 一日 八重崎

一日 東海

一うこへ すが原 一日

一日 いろは 一日

一日 うんご 一日

一日 かんこ元 一日

一日 大いそ

一まえ さうこ 一まえ 足ふ稼

▲たがや三郎門

一うこへ わり原 一まえ そあ川

一まえ こうりの 一日 せこ別

一日 せこ別 一日 こうり里

▲井筒屋こうい門

一うこへ 金別 一うこへ さがる

一日 うれ橋 一日 わるもず

一日 大こう紀 一日 もこうこ

四之巻

一同　とみがが
一束　郡川
▲一束　高六百文
一同　若川
一同　津山
一束　かもん
一同　まつの尾
一同　ようの
一同　わりう
▲一束　高六百文　山路
一束　そめまま
一同　紀名
一束　ようの
一同　四郎
一同　九重
一同　あのを
▲一束　高六百文
一同　たつ稲
一同　たつ川
一束　せんよ
一同　吉家
一束　せきさ舟
一同　ひかも川
▲一束　高六百文　井筒屋茂九郎
一同　大ちう
一同　かもん
一束　小麦
一同　白ひへ

一同　ふ川
一束　白茂　茂枝
▲一束　高六百文　沢屋吉六郎
一同　初花
一束　茂山
一同　やまと
一同　松ヶえ
一同　いせ川
▲一束　高六百文　鍵屋又右衛門
一束　八子代
一同　ちちご
一束　茂茂
▲一束　高六百文　鳥屋弥三郎
一束　ちちう
一同　ちちう
一同　ひんかと
▲一束　高六百文　鍵屋利兵衛
一束　大ちま
一束　大ちう
一同　ひんかと
▲一束　高六百文　鍵屋茂兵衛
一束　いなで
一同　ひかさ

▲大和屋孫兵衛

一米銀　さつまより

麻苧長合　三拾弐人

米銀苧長合　四拾壱人

一わげ屋　井筒屋宗右衛門

一同　わかさ屋庄左衛門

一同　修理屋庄兵

一同　鍵屋利兵

一同　日ノ丸屋義兵

一同　大和屋孫兵衛

一麻苧長帳　弐拾反

一米銀苧長帳　拾弐反

右くさ苧長わけ　拾弐反

ゆかのわり

一

大分のしんぶつ和尚

堂宇屋根ハ

百姓もむらしこのかたもはいまいよ

ものもついのちふむらしとかつの云わ

つくてりはあたりしまい屋。これを病

家の風そうぐ宅を立ちるり多の。

そそぐへいはそへりしけゆくたまへ物そを

うりつもうりもやまへと祈うりぐ花せ

めてまか祈なさをとけう南ふう

仏様の業せんじてござろもぐるさ

へ不定世界ありぐ。死里初ハにをそう

へちまへがうもうしたなるまへ川て

たまさ毎よどりが南でげくおあ

よりはせわいりと女のやくかま

べりーがかうろと死里がたんとしろ

新町
あげ屋
ぎれ

とゝをとつてんまつがをかいく。この
たび城ゞ茶ゞどせんどろうへ和おい
てまぐ。ひうへよ醫えんどのくふ和う
いてをわるゞ。ゐい屋からへ源つてを
ちまゞ病氣とゝてゝうゞ。えんでい詞
よむちおてんまいか有る中氣ど溶
世のゞうとゝてよ物でうつゝひゝろう
ふとはをゞ二世を爲ゞつるかゝあゆて。
まつゞこの絲を爲んねる。仏つゝ向て
目をいまねゞまこいむ絲まゞ來てわ
とゝあくゝゝゝそはこゝゝ神ゆゝゝ
を丹貝やのゝ。ゝをゝやハもくゝちし
ゝといゞ。ゝまゝれのゝまゝんとハもくゝを雑り
氣ゞつまるよ絲れ方れもゝんまゝのゝその
ちゝくゝをんたいとゝゝゞくへゞゞんとを

まをゝこゝゝけとゝ
どゝ。ゝゝいゝてゝ氣ゞよう陽ゞ。月だろう
ゝてにまゝたいとゝ。陸ゞよのうげよ分
をひをゝあゝうゝれゝのゝかゝこ一まゝのゝうに
ゝこゝゝゝ

宮やうにいのちたてもあまくとゝの
の世のやりまにせがはるくゝまはも
しれるのおりつゝ花里の方まゝのちうら
あのおちてうんちゝぞうつ夏くてもあれたの
こはにゝぞろのちゝのいとやゝ引紙のわゝ
たのむ事ゝおゝる。のゝんゝよゝたゝゝば新
うんぬ事をあぬのをゝ世ぞうれせを
んとゝぞけてゝあまゝさいゝあゝをゝさくよ
るゝみいちのびるゝゝさりゝそゝあゝしよ
ぞうくくゝわゝれんゝごゝそゝをゝんゝい
交よ池とゝうゝ。ゝる新里源ゝあゝく
しゝいまくゝちゝいちまゝ夏ゝ。ゝんのゝすゝへゝゞ
いまゝゝゝぞうゝちゝこゝゝてゝもゝうんせゝね。
そゝんゝるゝるゝゝゝびゝゝちゝをゝゝゝどゝゝたゝゞよゝつゝさ
ゝゝとゝゝちゝこゝゝゝ

あ表うし相ぢうさてうるん兼こ
杖と突ていうしゆて注目さへなき
座敷中。なでつさとりつとるまご
れ子。新町格の彼屋ろうつき流れ小
紐。小万和屋ゞ荷絵のちんざう。奥
て女房れ兵子部で浮世のりれの
篇とこそげうやうう。一人とのこさどん
葬れ多上井づく流れ意西山さよ
うごくかとたへくろ

二

貫ゞ多ちの達が命ハ

曲情の間で目わくろいぢこに出ると地
女れちもりこうぢんぢうよ目金う
づきこの上代屋ゞうぞ扇をこさんいり
れ守り袋の口ちあてうぐら面ると

かりげちさゞがつとり前のゆ御りて
やにろくわいざあのつろといがうい
髪ゞわるかろんて安をつわん兼い新
よ井筒屋ハ家よそこよさこのぞけ
ばうとちやハ間ちりそりでそつゞなぐわ
ちうさゞれのわくさるどんうけま
た白ゆさ兼へちんまいちうこちへお低
わそだーませちろ祖くよいとあう。
ちまどのへれちんまいの奥れ椒ハとろ
ちれ。おうとヤたをまおくへぢん兼れむ
おこやりと曲情なのくらわさて紛
ふとわいとろはこのうなでめこそ
もいちゆ。小私のゆーいざあへて。奥
へこと兼ばゆ。くさ実ちうれしい
やうぐつかいやうぢあつちさハなまん

かぐやひめのべかぐやひめおもごさりしハイづら
しいこんな孫してわハかとよかとぶつを
おりたりうさるぬよ枕屏風をおりやり
ておくみさるのもくさるねうやたいよ
おもふハから孫ど。おちうづさをれ
回おいやるさこの方をちん兼れ。お
たづねまぞふうづくりまんハれあんと
やとやとよどいぱれいのをおそ迷
ゆり。病ゆへといひねぐらねぐら抱
どやまんおゆるゆるをよハくと。
ぐくつりるむ孫のうちぜまりて
ようけをかこぐりおりちくハ花よたち
ちりておんやとよぐ海ーやまハど
の孫ていて人よゆりさそぞおんの
りよ亀ハよりの事ぞ。ことさりぬーの

つ孫ぐくよ。女房ハ人まであり
ぬげだとぐちよまいぱやとぶふて
おりへてちりはーさづくさぐの女房れ
いなり女房ハこうだんまい事ハと
おがそうぶ。白ハどのさとーるハぶふ
ようけゆるおおぞぐて。ぬるうねぐをと
とハとやぶいハ抱ちるぶつてわ孫。
ちんよゆやうさしにとよハ女房乃
やるるのいまめりいと書うるハ変
どのおそちまたとことだのうり
田金にを家ちづりさ抱ごよ月
ぐりくやくんぬりておそつどのと
いこんれうんまいよ事ーこ事一ハ。か
たよねぐいぐあつてのの事。ハ安ちつ
たとぐりぶてさるのそうとぶそまとハん。

ありがたいごくせんどや
たまのどやの

こうんせ
こうでござろう

しそうれんあいうちをもつてもね
うつぬのようちつとおそだつてそで
宗旨ちをさうくぼわいうつや
さうれんでなりてをりはたねうそうへの
はれといたるようもちまんをあ
うけおごてゐる後ひそのうるねうさき
のどくなこうれたるいふうぐそぐ
きゆうでごこやたひうちつゐる
うこぐゆそうをうへのいひ付よ。
お宮ちりおまいよんちんなど
とつくなれでをとぐひでせきてゐう
かうちうりいとけ童ぐつく
の病人とおうけおごてのうりつぐ
へかいぬ事ちがわいそるいあるごきわ

りてくごうんとうかれ事ゆう仰
ゆりとうけ夏ちんとを親ちう宴
きつうちてかねねがいその一笑。
ちりしれおりるうやだとを
いうぬ事。外のねがいをりべし。白ゆ夏
の出病気をあくさ夏出若よわそだて
お多かへ飛御たてうれて出湯
まいうせて見このにをを殺たうだ
うつそくびうんでわんこれうせん。
そうして中まいて拍ぶやうかもつ
童ばかごくいま弁ちをつく
きばの白ゆの白とうを字をこてかう。
たへうとうをいまうしいやきうう
てうつうちをおいうきうへて見うをの今
日おくさ夏のうつけ親やきわうこと

そこらをばれこは法さとりをしたい
初めをだらくおうなづこをまがそを
にうちてをにしよまこうあくれの。
はんをえるわほをを。おいとちあんせ
と年のそりにさやけがちまへ巣の
をとちてをだーをうにおいでこ。
この世はあんうちくこをにみらへいん
うち掛りにうはをてはまりぜん
とをふいよるがこえおいとこまき
おいーとを。名づけあやとかつこふ。
そふちは名をトえれてはーつふよ
ちはーこふれちはをれてこをえを
ふはまこりていりーがを。白おおか
いおいとをやとうをしーかる新髪の新
あごあやなさんわさがれの日新まつ

まのさうをどはめどるを漁こ

三 一家の女部

奥いこちり掛えよだりをーやを白
ぬがはよちくおにおちーはとけをさ
とそふびんやをそをこをふをりんのかをよ。
初めてあそこうはをとをがおこあの
いとはごはんふとをはまえがをこと。
このちがこふく光よと胸のはちをさ
しーよとれをちくこをとこ身ををこ
ておくもつたいおーこをやをへの
大るはここをはをやこけがをたる私がそ
をよへをどうをこへの。ちづーなが家
おーち。おんいつにかどみよをせ巣ち
おそこはをにをまくみれはと。こをび

あるぬせいのうそつくはとあさる
ゆめ。ぬそうこいどにたそつあるぱん
さいこうかいより。ぬうこのあこの
ぱまとだ。ぬくんぬんぱくようあこど
ちれそうあっこいまんざ化金ど。
ようあこうをに耳ゆをてあて
だいてれるああこざれとつこと
どにぱくい夜を新ようあそあるかざこ
こせいんんぬ安内いこざたそつめそ。
ん化どのかを又このみにをおなねとの
ろたのりこぱいあるをしいうぐさが。
ようにいうざろてん化どのさこるそ体を
寒かざこと。ぬこねたむ事いあぐこと
だふいこふ答こすう。こんだこさんあこ
にのちふねうぐこねざう耳にいうを

あんなことよそのつうこめしたをわ
いぬこのこゆゑと。親子のなごりを
まびこのよりとものなごりなるつつい
とあるがとこなくさちかわへ射てを
たていなんと面がわとまう。恥う
みてなりまびまいそのひとけふと
ぶ君のかいとをゆだつこうわ。
白かどやなへかどのかんの奥さま
おいとれぜへのんたてて神ぐのだちを
こがめとものい若よ。親子のあちかた
どのとぞこちらたこてござるよがなど
宮へ出てわいのこれ。我が見ぬどこへた
人いとれとが世の中にあるこれをて
祭りをてなぐさはんとのおいっ。ゆうつ
まかりぞやくなかいつこちつくと

くぶぞ。伏女房よあんつちよこへなこ
だなぐらにてしてしといでたまよひしと
いぐこうこうこのうそなこれこあるの
ぷまりごの親とまるるを親子れ
名なかしむなぷ女房が取り紀いだ
いなるちこよこの人のぷんだちをま
いつこしばをあいどのこやげをて
しひとをまてよこ流こどなう方なる
いなるこざり。白かいぐこあこされて若
ちなをだこかへぷが親んてあくぷん
てこ人ぷんあるまつもかをなる源へ
りのいこあぞしはひねびたてど。
金ハ七郎　こ親絶ぷんぐをたのむ
のは中を流つれ息のよいくと。
おくにむうひてをわこをぷまへい

祈り仏くやおそまつにおれどもさるべき
たびちまやかくさの。むまれ給り
でござんとうぃまへれとこのみよ
をれこいせいかろ仏ぬもわそ死
れば私ぐさきに海ふがあるぱ
みふ智恵のつくまでいれたのひ
奥さをたるりをてでんせぱふ
おうとく笑つやを。給るそこ
よおどろ色こかくそだへさち
てみんとおひ孫ぐるちいかいまでい
ぬいおねんぶつ南無阿弥陀仏ぐ仏
と。初を方夫を花さてを花ちる
今のをとれば。仏を女房をそだへ
給ぐこかさみぐ女房へ落る涙を
おしのごひ孫てくといへぐをぱ

子ぬめ〜にわりをせたらぱ〜姫〜この
涙をたをてぱ〜おが〜病もやをとる色と。
ぱ〜ふをわ〜こ事ぜあて一歩ゥ二よ
さうぱ子だりをてねこせたらぱれとり
をわるまいふぱ子ふわてくうそすれ
ぱへうをれ親子ぬ等ふまつごのれと
母屋へふふまし〜てす色ゲをに花ち
母とのらをへて。花おいをどのこみさ
れの弟をぱこちらをうをおがるぱけめ
んぐ子の子落ぬちんぱやちやをう南色
おりてよ。紅粉をぬり男にぱまこぱろ
とうぐりて涙よをる。業九悩のたは
をやうをてぱぐいのねをたつをこ
けだるおいさ男なれぐをぱこれぐへん
ぜうみんーみそ稚系男のまんぐらを

ひ孫のもちもとにうでゆきぶり。功徳
みょうりみょうが五百年。まつごけみょうぞん
ようようけたまへやさいへ。春ようのあい
ものいてでさぶもじじく目をあらこと。見
かうあさうげでござんどる。おや連家
とぢはいさとをもうぬつぐ身をさうあう
よぎつごの一句ご考とそうかいとさ
いひ。なりけれのいまはもうかんのさい
のまを身ハ孫の白髪ぞおいてとうあとい
めてたくをかれのお関係ふあり。くより
へしてさでれれいいかりてもをひ
さふいく万年をあ友ちうが若ちあ
あハとうんどり。枝孫をもがれをあ
げをこのこと孫をいるいさをつぶまよ
咲し初恋の風。初恋ちるごさくゆて。

はいよちうあくありにうる。みくわ
ちや枕よてもをあげくハ。
ちうく目をあのごひたりくへ門
よあさ。蹄よさうぐ拙ちをあ
て。世界のちありあり。ハをれ
れをかをさこのよまでちありをよふ
のものどうさとそてんぐハよあつの
義れつとあハ百年ちていまぐナ九ハや
くやりか孫をあげぶよあさあよあ
さ。ちうとこをでれちゃんせんの孫
あるよあさしかくぐれ恵とる里
のこの孫ハ狂ちこぢよのあと
ぐれ。えんぶりの上義あつぐんのふ
た孫あるハとうやこまぐ。ぴ沙法
ひろく安つ孫て。輝のおせりを

ちりうとおもへ。武州のこ谷をん
げんぷよりくれをちりくる

色愛三味線恋の奏絃

色愛三味線恋の奏絃

第一 独娘の親と教ゆ　目録

生駒末

身よりの先りうすゆ
文十あれ黄金の肌
ゆりくる生の孫で首
青くらりとる
形奥れ嘆ぶ

第二新宮町の部

極ぐらさ三味線

孫のような女房と
ごたくさんの色盗人
酒乱の男の目待の企
地獄の底の一足越い
哀の大海

第三糸ぐ弱ごて

雪の如き女房の雲助
盗み科と身の引き盃
弱ごわどゝ知らぬ〳〵文嘆
金盗みた変
紅葉昌の部
綾の色市

▲たまの部

○京町三浦屋籠つ間

一変　高尾　うぶ藤　いせ屋
一変　こゝ山　うぶ藤　ふくまつ
一変　うす雲　うぶ藤　平田
一変　小むら元　うぶ藤　ちくぜん

○山口屋七変つ間

一変　あ〻の藤　うぶ藤　ちんや
〆四人

▲たまの部

○京町三浦屋籠つ間

一　う野　一　小ゆき
一　とぐ原　一　あしの花
一　ちゝせ川　一　うしなを
一　ちゝた志　一　小たま
一　う孫兵　一　山ぶき
一　まつぐぜ

一二ツ浦　一凡そ紀
一八ツ　一ぶ
一三又
▲ひ〻ぶ久太郎門
一いま堂　一初む苑
一むうづ〻
▲長崎屋平兵門
一チ〻セ
▲さの〻屋三ツ郎門
一たん志う　一三ツよ家
一てい都　一恵山
▲山ち〻右衛門
一おさ〻　一花はな
一ち〻う糸　一実の井
一わわ光　一いとく
▲三浦孫三郎門
一大わつに　一おの家
一八重ぶち　一うれ橋

▲巴屋三ツ郎門
一ちん山
▲亀ふえ茶の郎
京町三浦ち太つ門　一ま方屋　一三ツ家
同町三浦孫三ツ門　一重屋　一ゆ井
一わ別　一郎ち　一小ぶ　一ち山
同町巴屋三ツ郎門　一ま屋　一郎川
一ふ〻ぶ　一ぶ　一いち　一ま屋
同町山ち右ち門　一ぶ　一実おう　一菊ぶ
一ち〻う　一わ　一ぶ　一ま屋
同町長崎屋平兵門　一ふぶ　一小林
江町ぶ〻ぶ兵ち門　一小ち屋　一久ぶ
一小武郎　一ち孫　一ち川　一ぶ
一ふ里　一大和　一小ぶ家　一ぶ
一ち〻う　一ち　一ぶ　一ぶ人
同町御茶三ツ郎門　一久ぶ　一ち
一小ち文　一小武郎　一ぶ　一山
同町左ぶ屋ち左ち門　一ぶ　一ぶ川　一郎の井

一せきこれ世一こうまぶ
同町春や伊賀つ同　一初瀬一ていう
一後こう祢一柏ぶ　一清瀧一まつぶえ
同町巴屋源蔵つ同　一玉ぶつ一高橋
一ちんに一ちつ清一松風一高倉
同町うつや勘兵衛同　一清水一小ぶつ
一うつ一いづみ一こ清水一うつ
同町桜や嘉兵つ同　一小成郷一清水
一みやこ一こうよ瀧一子兼一江川
同町梅屋弥蔵つ同　一かつ松一山城
一かつひぢ一ぶがく一見えな一弟殿
同町ちや重右衛つ同　一小物代一番成
一小五つ一小市つ　一タぶち一いしく
同町西見久蔵つ同　一高松一瀧高
一ちむ一こつ清一蔦川一松風
同町屋や友蔵つ同　一おさ代一瀧代
一いづこ一こ玉川一瀧せ一ゆ会
同町石側小兵衛つ同　一坂田一市器

一やち世一文代友一ちつと一いく田
同町かくだ屋市右衛つ同　一友野一ひぜ
一玉川一玉里一いこ代一おの
同町車屋清右衛つ同　一源橋一松風
一ちのく一清ひよ一ゆ長舞
同町ごま屋勘兵衛つ同　一初祢一初井
一わく一天ぐつ一清川一みやこ
同町米屋長兵衛つ同　一弟山一こえご
一ぶり屋一ちつも一ゆめ一いこう
同町屋や市郎つ同　一こう清一まつ友
一いくよ一ゆえぶつ一小ぶ一きう清
同町紙屋長兵衛つ同　一弟松一弟竹
一ゆこく一わか一こうく祢一こうう
同町玉や重兵衛同　一わづま一田ひう
一ぶりづく一ちつせ一松ぶり一ふ屋
同町大紙屋久兵つ同　一高瀬一いこく
一ふりん一江に一こよも一小ぶづ
同町紙屋右衛つ同　一かよひぢ一八幡梅

一ふる村　一小ぐり　一小ゆり　一小ざと
同町かつぶしの宮　一玉川　一子里　一ふるゆん
一たつ山　一今やう　一玉川　一ひのやめ
同町まんじゅの宮　一角山　一かつらと
一うりとり　一白里　一ふる村　一まつ浦
同町あかいはの宮　一ふる宮　一小宮
一ふるさと　一玉川　一大宮　一万宮
同町まんじゅの宮　一小西　一玉川
一小林　一小宮　一稲荷　一今宮
同町山鬼ひの宮　一ちゑ浦　一ふる宮
一わさだ　一ふるたせ　一わさづま　一ふるゆん
同町沖村尾宮　一小いづも　一大ゆう
一ふるしと　一たのく　一ふるたち　一中ゆう
同町ふるや熱田　一ふるす　一稲荷
一小宮　一ふる　一たせ　一中　一いりぬ
同町つるの宮　一夜の井　一玉あり
一小ざと　一玉川　一ふるこ　一金宮
同町ゆうの小宮　一高金　一出作

一さとう　一小家　一みの　一たつ
同町尾谷の宮　一新えん　一を中
一みう　一ふる松　一みやく　一市野
同町黄ごの宮　一小宮　一ふる　一お
一あつ　一山川　一清ゆう　一みやく
同町ふるの宮　一若宮　一ふる浦
一いりぬ　一ぬい川　一いり浦　一ふる
同町宮尾の宮　一久米川　一小宮
一ふるふる　一ふる山　一たせ　一ふるこ
同町巳尾伊宮　一若ん　一宮
一あまぐ　一八ん　一ゆんど　一ふる
同町大宮の宮　一初菊　一出ん山
一ゆう　一ふるのめ　一わづま　一ゆう
同町茂浦の宮　一清ゆう　一わさう
一ふる浦　一小家　一田中　一稲荷
同町ふる稲荷の宮　一ゆう稲　一市稲
一のかう　一ふるよ　一ゆう　一ゆう
同町ふるの宮　一ふる　一ふる新

一柏木一五郎　一三ヶ所　一かく地
同町長ごや屋敷　一八しか　一ひあ井
一ひのく一ぬ敷　一ゑ文一りか
同町馬食屋敷　一ひもの一九ゑ
一玄山一さこん　一たもん一さこん
同町中松屋敷　一梅ごえ一ことりへ
一みなひ一小ざと　一かつら一小すり
同町湯屋市屋敷　一ゆ清一小ゑ
一ゆまつ屋一中川　一河瀬一ここう
同町ゆ屋敷屋敷　一利や一改つ孫
一いなご一江口　一いこか一ちとせ
同町松屋徳屋敷　一ゆ松一ろざと
一市村一高松　一吉田一ちよの
同町ちや武屋敷　一いこく一ゆ清
一清ゆ一清ゆ　一瀬川一夕雪
同町つの屋徳屋敷　一白玉一津川
一みなと一ゆ松　一ゆ稲一敷ち
同町巴屋文屋敷　一ひとりへ一ゑのん

一みゆき三ちさと　一茶四一万ゑ文
同町万屋ちや屋敷　一高瀬一まつぐせ
一ゆの一小すり　一松ちり一ぬ屋ま
同町山中屋伝屋敷　一清川一長野
一白川一ゆんど　一ゆ清一ろぐ海
同町長ゆ伝屋敷　一まこ世一清川
一市川一つまり　一茶世一ちんど
同町神屋ゆ弥屋敷　一ぬぐり一茶元
一弓代一まつぐ　一ゆ屋一面一いま
同町木村ゆ市屋敷　一松ぐ一ゆ
一ゆとん一ゆすり　一市村一むの
同町長ゆ屋敷屋敷　一ひのく一いま海
一茶むり一金文　一万敷一ゑ敷
同町屋ゆ三屋敷　一ゆげまき一ゆわと
一小ゆり一なかと　一ぬづま一今川
同町丁ゆ八屋敷　一橋海一弓屋
一ゆんや一ゆと　一ゆ城一沼口
同町長ゆ八屋敷　一ゆ清一ゆん

一うすま一袖ぐち一ちつま一角山
同町ぶぎやうたち四　一ていう一ちのめ
一わさづまこうぼう
角町側大万屋善右衛門　一せんぬ一ぬ
一小むら元一白糸一せん川一かぐら
同町桐屋吉兵衛門　一ひんぎ一なかま
一ちまつ一せきのひ一さきぐ一さきぐ
同町上総屋七兵衛門　一うとぐの一るの
一ぢ元一こうん一白
同町ちぐ右衛門　一ちの物一ちう
一ちい元一ちう一を　一麻取一大よど
同町中万屋勘兵衛門　一きたふ一ちう
一めぐうん一清つを一きんぐん一きの柳
同町つる利兵衛門　一かりら一くりた
一食ち一深川　一ていう一わつよ
同町ちちまや兵衛門　一小ぐ一ぢう
一ちのぐこ一ぬう　一ていう一八ち世
同町い世屋伝兵衛門　一ぢとうさ一ちく
一婦沢一ちの

一まち元一小ざと一みちのく一わう
同町巴屋十兵衛門　一万ちま一まの
一清ちち一中ぐう　一元ぐう一食ちま
同町武蔵屋ゆ兵衛門　一ぐちま元一ぐちま元
一右川一ぐちう　一万ちま一ぐち元
同町茂や兵衛門　一ぐぐ一ぐあ山
一ぐとよ一つと代　一ぐち一みの
同町巴屋右衛門　一つちま十角ぐ波
一ちまぐ世一今川　一ぐちよ一大ぐぐ
同町つる屋長助門　一ちり山一小ぐぐ
一つちまぐ一ちつと　一小ちま一ぢ久ま
角町側ぎぐちや善　一ちう玉一三ぐう
一ぢ元ぐ一ぐちつ善　一小ちま一ぐちつせ
同町ちやちや玄兵衛門　一小ぐ元一ぐぐ
一みちと一ちやう　一ちん元一山の井
同町武蔵屋長右衛門　一ちぐ波一ぐや海
一ぐと浦一ぢとちう　一ぐとへ一ぐちま
同町小黄や加兵衛門　一ぐりん一ぐ清

一そう　一さん　又一ようれ　一まつを
同町　遠屋清兵衛　一ぜん　一ぜんぎり
一ふりそで　一梅ぐく　一金ちま　一ちゃと
同町　山屋伝兵衛　一ていう　一さくさ
一いさく　一うぐの　一さくさ　一ひ
同町　山屋三兵衛　一むら川　一ちの海
一かりはぎ　一ちう山　一くよひぢ　一いなぐ
同町　大和屋伝右衛門　一やまと　一たぐ海
一大こちら　一こはぐさ　一こやま　一やまぐさ
同町　西屋六兵衛　一ちう山　一ようぢ
一はちう山　一ぎれ海　一はちく　一くはち
同町　小菱屋彦助　一ちあ川　一ぎれ
一さがの　一ちは昆　一さるん　一むらぐう
同町　美濃屋伝兵衛　一山ちう　一ちやこ
一うちん　一むしう　一はくさ　一ぎはは
同町　松屋十兵衛　一ぎれ　一まつ重　一海ぎれ
一すん世　一ぎれ　一ちう　一ぎれ
同町　大和屋伝兵衛　一ちやま　一小やま

一一学　一小ちま　一ちう海　一八ま桐
同町　平野屋権兵衛　一市橋　一ぎれ
一清ぎれ　一ちう祝　一ぎれ　一ぎれ
新蔵　いち　基助　一ぎを中　一はくぐ
一ぎを河　一小伝次　一はちく　一小ちま
同町　いち　次兵衛　一ぎれ　一八ま菓
一小ちう　一かはぐさ　一いと海　一わさ書
同町　世屋左兵衛　一梅ぐく　一まつぐく
一う祝　一ぎれ　一はちく　一おさは
同町　伊や三右衛門　一ぎれ　一やぐさ　一ゆき
一田むし　一ちう祝　一ぎれ　一ぎれ
同町　友屋又兵衛　一ちそう　一みち
一八ちう　一伊ざは　一ちあと　一ぎれ
同町　浜ぎや　一ちう　一いく世　一まつぐ
一ぎれぐう　一万ちま　一ぎれ　一ぎはは
同町　上総伝次郎　一大ちく　一ぎれ書
一八十郎　一ぐま　一小ざは　一おとは
同町　おちやの　一むら世　一ちう

一はせさん一まつ浦一長ケ一あやま
同町宮屋久兵衛
一三ツ一五ツ松
一ミヤヘ一ツ浦一まさ位一こうさ
同町宮屋志兵衛
一ゑびす一志の浦一ちかの里一さてのふ
同町いつも仁兵衛
一小ちゑ一ちゑ一ちゑ
一ゑ屋一ゆで一ミヤ一ハ
同町くこぜ志兵衛
一小ゆ浦一むろづ
一小いづこ一江口一むさゐ一小ちゑ
京町尼側長浦屋久兵衛
一こと浦一ヨクさ
一ゆしく一九一小ゆ一ちゑ
同町浦屋源兵衛
一そで浦一さこう
一ゆう位一わふ橋
一ゆんやこ一志の里一いヨ
同町こうくや元兵衛
一ゆ一まつ色
一いち橋一むろづ
一かヨ一ゆ一玉がこ一ゆ
同町ゑびや長兵衛
一ゆ城一ちゑ一ゆ
一ゆ城一ゆ一ゆ
一ゆまよこ一ゆへがこ一ゆ
同町やうじが屋長兵衛
一ゆ一ゆ一ゆ
一ゆ一ゆ一ゆ

一かゆ一ゆ一ゆ
同町相屋右兵衛
一中川一郷ゆ助
一ちうざく一いづこ一あづま浦一つま浦
同町大和屋六兵衛
一江口一ちゑ川一ゆ
一たうまつ一ゆ一ゆ一ゆ
同町万字屋七兵衛
一ゆ一ゆ一ゆ
一いヨ浦一うづま一菊川
同町加賀屋七兵衛
一ていう一浦ちげ
一今ちゑ一万世一ちゑ松一ゆ
同町宮屋勘兵衛
一ゆ一ゆ一ゆ
一ちゑ一ゆ一うづま一ちゑ川一ゆ
同町ゑ橋屋八兵衛
一ゆ一ゆ一ゆ
一ゆ代地一小ゆ一ゆ代一郷ゆ助
同町宮屋伝兵衛
一ゆ一ゆ一ゆ
一ミゆ一ゆ一ゆ一ゆ浦一ゆ
同町りゆが屋孫兵衛
一ゆ一ゆ一ゆ
一小ゆ一ゆ一ゆ一ゆ
京町側ゆうゆ屋長兵衛
一ゆ一ゆ一ゆ

一中ゝ一ゝ稽一たゞひ一ゝづま
同町ゝ紀伊ゝ治ゝ兵ゝ門　一弁ゆま一ゝ京一今ゝま一おの〳〵
同町ゝ長崎ゝ左ゝ門　一ことり〳〵一ゝゝう
一弁山一さゝめゝさ一清ゝ京一小源次
同町ゝ加賀ゝ徳ゝ右ゝ門　一浦ゝゝ一ゝ川
一弁ゆま一いま坂一ゆこく一和こく
同町ゝさ藤ゝ右ゝ門　一いゝさゝ一みゝう
一ゝゞ坂一ゝゝゆま一ゝま左ゝ一ゝゝり飛
同町今屋ゝ長ゝ門　一ゝう岩一ゝゝゝん
一ゝゝゝ一弁山一ゝま
同町ゝ鈴ゝ稽ゝ兵ゝ門　一大内義一万ゝ吏
一ゆゞ白一ゝゞゞ一ゝう
同町ゝ白ゝゝ兵ゝ衛ゝ門　一小ゞゝ一清稽
一ゝゝゝ一小ゝ吏一せゝこの一ゆゞ
同町小万宮ゝ勘ゝ兵ゝ衛　一清ゝ稽一玉川
一大ゝゝ一つ稽ゝ在一ゆゝよ一清ゞゝ
新町右側ゝ井ゝゝ兵ゝ衛　一ゝゝゝ一ゝゝゆ弁

一ゝゝゝ一ゝゝの一ゆゝゝ一ゝゝ浦
同町ゝ紀ゝ屋ゝ勘ゝ三ゝ郎ゝ門　一いゝ清一ゝゝ京
一ゝゝゆ世一ゝゝ井一いゝゆゝゝ一ゝゝ浦
同町ひゝゝゝ久ゝ兵ゝ門　一ゝゝゝゝ一ゝゝ後
一江一江一ゝゝゝ一ゝゝゝ一ゝゝゝ
同町ゝゝゝゝ三ゝ郎ゝ門　一いゝゝゝ一ゝ吏
一いゝゝゆ一ゝゝ戸一ゝゝ世一ゝゝ
同町九ゝ屋九八郎ゝ門　一八ゝゝ一ゝゝ
一ゝゝゝゝ一ゝゝ一ゝゝ菊一ゝ吏
同町ゝゝ屋ゝ長ゝ右ゝ門　一ゝゝゝ一ゝゝ
一小ゝゝ一ゝゝゝ一ゝゝゝ一ゝゝゝ
同町ゝ屋ゝ吉ゝ兵ゝ門　一ゝゝゝ一ゝゝ
一大ゝゝ一小ゝ一ゝゝ一ゝゝゝ一ゝゝ
同町三浦ゝ左ゝ屋ゝ門　一ゝゝ一ゝゝ
一ゝゝゆ一ゝゝゝゝ一清ゝ一八千代
同町ゝゝ屋ゝ勘ゝ左ゝ門　一清ゝ一橋本
一ゝゝ一ゝゝ一いゝ尾一ゝゝん又
同町巴ゝ屋ゝ与ゝ屋ゝ門　一世ゝゝ井一ゝゝ世

一ふとせ一ちつ者一　中ノ川一あるう
同町　一ちつや三左門　一ちの井一筆ごと
一わつ坂一ひら米一中ノ一いづく

▲芦ヶ江戸町河岸

わかぎ屋友屋門　一ちまつ一ぢ山
一ぢつ酒一右ゑる一ちつ屋戸一ぢ屋
松ぢ屋左左門　一ぢまつ一松づへ
一つ孫世一かつの一初せ一く山
桐屋三ちと米門　一うがま一ぢ沢
一小ちづち一ふとせ一田村一ぢ世
ちぢや平左門　一右兵一ちと
一松づへ一ぢ門
いづちや左ちと米門　一ちちちう一う孫
一かつ尾一友づへ一ととよ

▲芦ヶ揚屋町河岸

ぢ江屋源左門　一ふ世一いとく
ちんちや作左衛門　一右河一ち川
上総屋右ちう門　一ちうと一小源

桐屋三ちと米門　一ふ代の一いづく
いづちや孫ちと米門　一ぢちちちちぢ
ちぢや左ちと米門　一いづく一ぢ川
万字屋与ちと米門　一つよ屋一ぢ与
一みかと一ぢまつ

▲芦ヶ京町河岸

京屋六左ちと米門　一いとく一小ちと
山田屋伊左門　一いかだ一松づへ
桐屋孫左門　一ぢよ一小源
めうが武屋門　一つ孫よ一いづく
いせ屋源ちと米門　一まつ山一ぢ山
孫屋八ちと米門　一ちう当一八千代
桐屋市ちと米門　一ぢつ孫一こと浦
紀ちと屋源左門　一ふ世一万屋
ちちと屋ちと米門　一友世一市村
まつ屋市ちと米門　一ぢ川一山吹
ちぢや十郎ちと米門　一いづく一ぢく
山屋市左ちと米門　一初孫一ぢひろ

まつ屋に　三軒
いせ屋弥　三軒

▲芝ゑの新町本戸の外

さらい屋九　三軒
同町光側友屋　弥屋
ゑちごや　長屋
大坂屋　三軒
とのまつ　三軒
平野屋七　三軒
長田や七　三軒
紙や　長屋
徳島　三軒
えびす屋八　三軒
新石側　長屋
ゆうや　長屋
第屋平　三軒
山川屋　三軒
新町通り　三軒

一　三軒まつ　一軒の外
一　いせ屋弥　一軒
一　さらい屋　一軒
一　まつ屋　一軒
一　まつ村　一軒
一　長屋　一軒
一　いせ屋　一軒
一　とのまつ　一軒
一　平野屋七　一軒
一　長田や七　一軒
一　小の屋　一軒
一　ちさと　一軒
一　えびす屋八　一軒
一　小ざと　一軒
一　さとや　一軒
一　まつ屋　一軒
一　小ざと　一軒
一　長屋　一軒
一　小ゑ　一軒

山屋清　一軒
山田市　一軒
高砂や　一軒
鮎屋　一軒
ゑちごや清　一軒
さらや　一軒
山新屋　一軒
いせ屋　一軒
つる屋出　一軒
長屋　一軒
こり屋　一軒
長田屋　一軒
前川屋　一軒
えびすや　一軒
いせ屋　一軒
大坂や　一軒
泉屋　一軒
俵町　一軒

一　いせ屋　一軒の外
一　八ツ　一軒
一　長屋　一軒
一　高砂　一軒
一　鮎屋　一軒
一　今川　一軒
一　千世　一軒
一　清　一軒
一　三ツ屋　一軒
一　長屋　一軒
一　松山　一軒
一　小ざと　一軒
一　松ゞ　一軒
一　鮎屋　一軒
一　かり　一軒
一　まつゞ　一軒
一　かり山　一軒
一　長屋　一軒
一　外山　一軒
一　清　一軒
一　ゆうや　一軒
一　こせ浦　一軒
一　清　一軒
一　今川　一軒
一　加地　一軒
一　長屋　一軒

▲松屋百六郎　一百匁
▲いせ屋六郎兵衛　一百匁
▲三の屋十三郎　一百匁
▲かづさや吉兵衛　一百匁
▲孔雀屋作左衛門　一百匁
▲鳥屋源兵衛　一百匁
▲つの屋源兵衛　一百匁
▲大清屋弥兵衛　一百匁
▲山岡屋権右衛門　一百匁
▲海老屋孫左衛門　一百匁
▲みなと屋清助　一百匁
▲中村や小左衛門　一百匁
▲松屋惣兵衛　一百匁
▲つく屋清兵衛　一百匁
▲大こくや助十郎　一百匁
▲屋倉屋作左衛門　一百匁
▲まんじ屋　一百匁
▲巴屋市兵衛　一百匁

一百匁　山せん屋
一百匁　いせ屋
一百匁　三の屋
一百匁　かづさ屋
一百匁　孔雀屋
一百匁　鳥屋
一百匁　八千代屋
一百匁　初孫屋
一百匁　清助屋
一百匁　山川屋
一百匁　清助屋
一百匁　八ツ屋
一百匁　小の川屋
一百匁　玉の屋
一百匁　茂右衛門屋
一百匁　大吉屋
一百匁　かづさ屋
一百匁　高の屋
一百匁　大義屋

▲左吉合　又人
▲左吉格合　廿六人
▲文九茶合　九百五拾六人
▲迎女郎数合　千百五拾七人

以上

▲揚屋の分
一百匁　清兵衛
一百匁　ひしや
一百匁　ひしや
一百匁　ひしや

一かまや七ツ之条　一あら布屋之条
一伊勢や地三郎　一さで屋市左衛門
一松葉や若之条　一ふせ屋吉左衛門
一井筒や吉之条　一ひしや市之条
揚屋合拾四軒

▲七夕　七種四女郎二つよ朝
▲七夕稚子　み稚敬　同所
▲七夕菓　合吉を歩　秋と
右之通付云珍文合のお備之
あ〜庫〜めけ二ハ

仮上

一　独焔へ親と救　生如来

女男の泥神天の涙揚より逢坪
とおろしのひ。ねうとれぐろ地出と泥
そだ〜ろ秋津洲。神人の親に
菓敬吉地とゝ。うぐそば
合の夢よあ〜ろ。地べ泥の吉稚
さりつく。米穀吉よ。綿布里に
あもろ。町人の男ねぐろ吉文賞て売
よ吉とひ〜せ吉童よ稚笑さ
せて。寝ねぐろ泥のんで泥神の大敬
ぢうづいて。伽羅くべて股史とれば
とて。天下のに法度とむうぐれど
泥のどめ。死ゆ吉て親に法
稚ろ天凡吉ろ。高務の

雲のごとくしてそこに仕合ものを南よ
油断なくもうけてとらせがたき人を
茂樂賞行の行事第一なるべし。
あるいは一天只海なるべしけるさ投長
鯛のよこ垂れ抱るみたるみ
がかれといのるなり。新なるねぶり長
とものとはさすがに紀わさらめぞや、
釈迦の在世はたらびに天竺に今はたは
いあるまじ。竹の蘭陀の眼ざしよ悪
はあるはつ人ものもの。常に肉食とぬて
もうと絶食なるとや。老輩の民
いいうなりしう。今の唐土こみりさま
ものだといい配と賢の時代なりてうら祠
よ風風ゥ物ばとそて命をむもろ程の
事なんとはなつ通ぎど。紀のなげうて

おけるんさぶ。お今ひとのぶ
る物なして他人のもらぬるし自慢な
されく同じ人数へむまして見れば
他よりまもしろ事。ひとりよ家窮お修務
さるのお事あぐうしべうしずもう
らば町中ヤ食て神系像とくれむ
らび。月くふ掛値と出し。酒ハ二
面和食ハ茶食よ豆腐の移りて
と極て。中左の修場像もてよ三十
文ずつとまりぬだなまるべたまり酒
幾第一つのりて。紀一貫七百兵衛食
昼後二度一歩他面よもうして拾ま
たくふぺの南蛮数鳥子屋の三角
度へ行てゆけよし。陸分妙五ものさ
鳴金の徳を泉悼徳ひろよ打せやり

なる。打ち上げ花火の二つ星つゝ花出
て。間長く落れ殘ゝ光の月ち
ゝ方にまつ。ゆらゆられ消ぬ。そ
ゝ出なりに打ち上げて。その月の十
六日を祇園くめぐり來て。今祇園通
俗に藤中打ち上げ。ひゝ三すじ
だいて殘れ。れ。ぬ。をわけ。祇園數
量の祇園まつり。早速余れ今
年花火藤中おどろき。古祇園
引出し七段弱て人うるさくと立
かゝりて食義とられ大なる拍子いよ
極りぬ。先月の通屋の藤中
屋中はもとおもれば幸ひ
やゝうれしく思ひ家の要ふり
をうつせばそれをぬらいるさぬ

作徳日ゆめふ打ち弱ゝたく
ゝ。ゝ上へく滝の二つ星つゝ
ひかりしふわ。ゝ上へ
して花火をゝ仕合。抽き子組ゝで
ゝ今ゝ。ゝ。ふ藤ゝ。出。ゝ
ひ。ゝ祇園藤中ゝ。ゝ
ゝれ。ゝ今一番日中ゝ
ゝ。ゝ花ゝ。ゝ。ゝ
今晩ゝ。ゝ。ゝ
ゝ。藤中ゝ。ゝ
ゝ食義のある今。ゝ。ゝ
の仕義ゝ。ゝ一番日中のうけ今
ゝ。ゝ今ゝ。ゝ
ゝ。ゝ。ゝ
ゝ。ゝ。ゝ

立面。業腦屋なる友ゆとそのこてい
へそいうこれ。ぬ神さ面のるとゆひか
ぐらかしと不筋のるぬ多ぞと後
氣をたいそと先けば。ひちたる
仁ぐあへうて。あるる八月十育切のて
祝とこ花とうく九月十一日の神系れ
月に合ねべるうあるぞと。ぬひ発と
立て。撲屋る仕形なるたれるを
奥うとぬ法しくる。紙ゆ屋のうう
へる紙の切も後ちうーと雲ね概を
まぐり。如房と内後とれだ女んそて主
性よちうとたて。我ゆと雪せびして
ひ食ハ何ふちるうさ。びくに相う物要
業う主るうゆでいあるまで。十九後ん
そうて今陳れいよくくれる。れるる

よ別上のるうねぞるうびひ見れ後
とちぐと上ち。ち屋数よ動て后
らて婦。猛食の伯父出場へいて
るりと。十面や北面八備と女ゆが法家
れ姫後へのこ海ねとうと出。
向藤のあうひと空入と。十四よ
るひとりの姫とうまて。とまの
姫と立て。主出る附男いうあん
う移。こうもるけ乗りひまへゆて
のむとあへ立てもうこへ女房いよ
く服とそむうしからのこ主ら
法と空よ。男のこ子へ乗し。女よ
い女房のつ主てゆるまれさま。
ひお出とのこうてゆび邪凡るを
るうさびたびへ主ま。大まのひとあ

之介町わたりのお出仕よりなを
事ハなりぬ皆さうなでごさうぬう
とうの。見い出酒屋のうむるれたこなさ
ほど家を出さうもつて。えのへよめい
つをせうぬ。あとなをせるとなを。
そのうがはてをほどいて拍子物
合ハさをのをとうびんをうぬ
新ハるいひくふれ亭うへ涙して
ゆるれよと。雑仕をどくめにてむを
めをのにたうたて涙とをを小姫房
へ新里へゆりぬ。丈ハ高賓のたをこ
うぎうかぐう。ゆまよりくるわんな
あいをもるい家婦ハいぬうはをうよ
しるいるりにうぎををへお世話うけは
たと。葉ぐまの下焼つけうれべ服

之ハ一品の事。ぬぐさにゆくうるハ
い。胸の上ようをおいてうちうと思
案せられようぐをを入て新くう
中ハるををふあ方ふれでなるふふ
往秋人をれ。ふうのをあつまり也
人をハゆうに。今ことを分相先う
ハむをあをつをてづうくへを父為
とんがけ。ようこんが事をよく懐出
と。奮起のおたといふ人をうをつ
けをうくわれををなをよ出て十
を切てふ十あハといふををハ舞ち
へられ初うををん庭ありつをを今
更ふびんさいよをいへべされべの事業や
ふるをへゆうをさいよわらべ。系う粋
のお書といふ女中ぐり居てあれ

くるぬれまたをかへらてひたにとす
をめて同ぶしてはもおちるあくう
の信濃よ女だくりたもを人を者し
て。ゆとまもとぐこをとんへどあるド
い鞍のおもをしく名をくくつこう裏
ぐこ女房ぶかてい湯はおりいて
綿つこ女の見ぶまれがごこーぴひと
めとんてゆはとうかづこ。年こ為
へて文十表流し。こをといりがあれ
て後人が一あ。こ引四十四裏の金を
紋布に入て。ちちよ文へいめるどい
ぶんち乳よ入ゆこれはこをーせあて
家婦と中ねをつておいよ東ど信
家こ反ぐこたのこまんて。おして へ出
るし涙ぐこて泣りくる

(二)

親方のあるかい白嵐の
はぐ「ここ味線
義八男をたちくる。いづくとと
いひかぐこひろこまおこへ結ぶれあ
つまり十人ぶ人こをとりよ。乳をつけ
てゆこねいかるの嘘と油こ磨を
ねわるこ。癸こ条をこりけ七夫
ぐ三夫三里ぐ六みぷ夫い一歩づ夜
夫の夫をれ七日ぶんまひまちくとしてよ
りのあり。おおぶ陸ア使せ舞ぶ伽い
弟あこてよい附ぶあ和このの
ませ親の花よ義をつけ。一歩ぐ一歩
二百をもう。秋食喰ぐよ日花のおを。
兵の打撃ぶて兵の夜よ欠せぐよ
三百ぐ。乳遠のの義八百百夜痛ぐさ

をもづつて流して百万ゑんかをとい[illegible]
くといふて無る。一切縁組のおもはく
よのり後せて数方ハ親同弟よ
舞にいるひ病ゲ病ゲいろう。姫の親夜
たまるもたうひのこゝろひでもあり。
めいさいのゆゑ。実ものて陸入どうさとい
ゆと名のつて男をいりそまこゝを
たのこゝ[illegible]ばそこゝ。輝ハ
書ハ稽ゲ[illegible]て書ハ[illegible]葉といて
る。浦人の[illegible]姫ハ勇ハの内[illegible]
仕りみの姫と。輝よ社迎る。姫の
一郎とて[illegible]内[illegible]よ。義[illegible]よ
ゑ姫と実とり。ハ[illegible]七年づゝ切
て。[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
と。あぬるこゝひゝゲ。内ゑ[illegible]

とこまづけ。いひてめそ[illegible]
んのたゝふ。くいて[illegible]
でハお書かゝの内ち。[illegible]
多ハ八稽といて今の金[illegible]
つけ。[illegible]ハ[illegible]
むすめのお[illegible]ゑ[illegible]
稽ゑ[illegible]仕込。弾の[illegible]
こませ。前尾ゑ合てあり[illegible]
といゝ今ハ世の[illegible]
ゑ。[illegible]
ゆ書。四十[illegible]
祇園ひ去よのこゝ。一切の[illegible]
といひこゝ。勅の[illegible]
為。輝のお書と[illegible]
授ハ新潟京ハ揚屋。富士屋の[illegible]

よ。一つのやうさ行ひとなる小神をうく無
くるこたんて養さめぬぴうとをるを
に乗ごろ。女郎屋中をふんをれど
とく京紙へ人とのが。その橋の下を
かりせてたるべーこ橋てぽもみも白ね
若をと六人とどりてのが。寄と寄
てゆ屋へまり。乗あけ人まづまれて
ひそろふ橋の下を橋さがるに一つ
の掛柏名をはくり。む稚まへをび
く中をあらくむるよ及だん先で寄
代のためーと指でちぬ橋をこ名
寄あつまりてぴ第と明ふ人寄
ちり家屋の仲なつへきうるあたは
ゆとある橋札。先よれりと忘の紙細工
の廣俗を流くり。それをひそそん

るに。女郎れよりくむのくりくれど
く紙ふ一忘よ編笠一つへのわり
こ屋ぴりーりれとるを見だろ
へ絶まり。我廿年果て粹なる
女ーむまぬ。四十を絶て世限よ
その名を始るべーこ切り今へう
たぴ人べくこ切りと粹のお書を指
清して。たよ称をんぴめつき出し
粉糠うぶつぴ女郎百どのを。
ぴお書よりこんでまいたいる
ゆや数ふ九女郎をそ中みて
あるいい痛郎といのりふつそう郎
遣くぬて留も面も名用を。
ろりそて宿よこそとその中よ
吋津くいひーー女郎へ人をうまいど

勅より情を出し、ぞ通くるよう乳とと
ゆ。京は客へいやもうふ。武士でふた
いつつそよ。九月を六寸を賣て。乳ぞ
親ろこの白菊とうも紀ろうをうめ
めば。親ろこ一しか親をぐり。酒ろと
大ろのにつけて。約束とは時はがんまり
せしゆしろふ。九月の廿六日乳
あって日酒を賜し。ぱけのさ如多
を宿りまり稼ぎ。高うたん程の赤の
如多をあつめ。酒はろとろ。最
ふけて知は如多酒ろ。粮しぞめ
ど稼ぎろて。あろ人を設て門
口をあさ売る時。時はぐんぬく。
男とあさろぞ。寅ろこみつまり
ぐさぐてまう通ぞ。そたろこ乳

どうにまう通ば階のぞりけて抱
よのこころちと見て。手洗よ細
と対。河の岸よよとる。ぞ人へて拍
茶の芦と押ぞ。ろ見紙。抱ちさ
ひ見て目牛焼ろ多ろて退
ろけろふ。ろぐ茶の肥ぞ茶ようれ
しやといて人ぐ茶とろ。いそぞうち
よんうしろいろる。それ女多実中よ。
ひ時はようぐろねんごろとる考もか
ろしよいろるのくまぞとまろく
ど今にそれど

三

粹が強ぐて

宝小袖女の雲助

ろるぞがようひ越ぐて男を稼。思びす
ろくとるのろるぐ。かくぞつよう風よ

船にて西へ一人をのぼせ。此船にて
の磯を漕ぎ出でんとあがら鹿
よりもとわげてんのやせるさま。後
級とりてたいはよかるらん人
ふらくづこえ国をこぐ迄ごわ迄離れ海
のお客と三度めし田力と月遠くる
たのしみ。夢覚して食終わって梅
を国々やさんのうわね先より自掲す
る男がおれ二人つ迄へいりぶ一人のつ
ひぶご鳴るとてゆうへ初鳴さ夏井お
客お井の田舟屋おつ迄いつ西より月
ちゅぬうこうと句んげる。後とつけて
月とと人とこせぶやるにぶつ巳掲迄へ
ゆうて客あるう。親うこのぶよって
どうこうてび蕎麦ものけ入ること

を乃へど。掲やさ乞て掲き家へお
元二つあ鳴屋の徒系將徒呂うゞ
若。見るへ同附郷子屋の三蕎
とや人へ子細ってぶ亭ってよ沢こ
ぬたっ。つてい稗のお雪及ぶ兵
今これよござるは。見へ乞お国月
から移べるぬ徒合と必へ。わるで安
つけて奥へ西て。さこのいお雪及ぶと
見ふと引合。掲いるあ。の美ぶて節
せぶ乞へいお乳づくへるるぶふわるど。
しこさ掲徒でござれど恥とやさこ
べ利ぶ安のませぬ。掲まふ見ぶるひ。
ぶ西へ乞わく来つて親たのこつふ
紀合よ西ぬおそびいぶ貴よつのや
金徒のかり西ていぶすよつまり。掲ぶ

みと称する時い西方の巾弐寸に切ま
せふをちれねわり長。町内の俳諧師
の猿第よ。金子四十両余ござるとは
つて。お猫といふてもぬさを元。見るる
鄙子殿三ツ巻つ反へ拾参てたる
よ。藤中三ツ巻つ反へ拾参てたる
わよい。わるそ迄へねとまれるを評判。我と
親子人へいかーと。いふ。ちんとうけ。ひ。
いふ自分物語るされて。人へ。三ツ巻つ
ゆ。ひまもて。極れい。へ雑家といて。
かーと。笑へいわるねど。貧乏人ふう
たがつるくいお世の宿業とおわきつ
ゆ。女房たゆを。内儀ちつ代物ん
ゆ。ちつ。ちつ。ちつ。ちつ代物ん。一人のむもあ
とわるもつるお。四十両よ。貧乏人又十両よ。貧乏人

して。右の掛猿四十両余の金子を
あいてそはてござれ。見るる結ひ
反の。発起あつて。自分のあやまち
とおのりひ。変ひもあを。見逃して。庚
もべーとの事。クやーけ。ちつ。そこ
ざれいどうそれ。金子。浸しもあい
れいふおりでいふ。親どくる。新といて
し。当稼共人。毛綿とやて。退件つ
とわれ。出ーます。ひる。見性。れ。ふえ
金子。そ。ひ。ます。ていけ。方。れの。法ど
ゆ。ふれ。ます。ま。ま。ひ。ふ。ま。ひ。ふ。ま。そ。ま。よ
ま。ちつ。ま。ま。ま

とういひさうをゆりうりとをしえ
ゆりうりとをその方法者といへいさて
又しやかさ毎くハ仲かをうて下さう
うさえをつうしげよの同を改るりど
今いりの通りはをて振る新婦も
そらの早わいたいてをよを宴へ
寂しいたなをでつをてうるを和ゆと
まうをせおうをうをいよ出孫まうこび
うを新しをれるうびをちゃんよかう
半分やをり宴ゆ重て下されお
書さ面を出おさ面と新まんつを
を肉うをゆおいて下されまをいをを
新三うれを徒旧房を奥をさ面し。
いうゆうををを出びををおまりをる半と
吳月をれびをうく授ふいうをよて

いひまををさうをいゆうをうをの。その
ゆうをとをうを孫べ面っておうくうをのひをを
ゆ分い。つ上りをいて又まをくべを。徒旧
房めをくがりて出孫を作りまをへつを
をりをの子細ゆをうをくと同べさ
れをの半雅ゆをいて下をうゆ。は
ゆうをとをむをうを人をたのまを出なを
一すを引んよわうべ人を中をさ
しをををうをつをて振うハ搭さ面をハ
おをつさ面はんさをををこのを重れ宴
の女房方へいひうををひうをく女房
面ゆさをうををを。先生を附縁さ面
を大為をして。先い府中の女房所。
みうくをいへのをてをや立面をうを出を
ひ半分和彩をうをを宴よい孫べを書

さうなの一ぶんがたりぬといふを聞いて
徳四郎はおどろいて
ねさされて下されといひ捨。夫より
急ぎつき場の小おち者はけらくさ
とんでれば宴を立のこ。府中めさ
ろくへいそぐぬ親ろへ行んろ長女
郎たのんりられろうんがりし
よ。鴻屋の徳四郎表中よひそふ
来りぶろ出家ひしゆきをこと
みしうべ親ろ大きおどろろ上
中にられと思ひ出ちを者めなとは盗
てい法師の遊女所の娘一刻を争く
ろへ来るべ。大場借しみろくを
さして踏りよおせろを今はせんくこの
ろくちりみむろ格のこ。

ひたるろいせいと法ぶ。京大坂で
を居田と名ゆ。朱めそいろろ
みをびくゆをんじゆうさせんたく
うぶ。見さうしまるろ乙沙へ天秋
とせあのよと網拍し。今ことよ
とんへし。屋元ちり紙切の
寛舞さぐり。秋いものむうそ
たくまるたろだへり陸ろか
仮ぶ。今は他境より入でむり門出屋
としひし箱そのまく関門せくよ
だれ。芥子圓といふよそんぶ。
芥子圓いとでよ名産圓よつぐさ
ようぶの臭りの天井のぬけぬ極
女ともよ利ありそ通沙へ仕分
と迎よ帯りしとい。相いしを

紙鳶のまことの色どり
風の楽しびでうそ天さて詳
よりぬ皆人色と変てたなし
ぶし一人の秋傷を起しこの功へ
なるとい孝の孝のくてぞ傾国乃
そんどやう弟こ蔵をつるるわ
らじめでこうしいれしで
たゑ雲なり

ひとぐさ三味線恋の巻終

江戸四日市
古今珍書恋
遠慶堂五一

第二番男子八十二回縁のつきぬ果物大蔵

世間十界男

全部五巻

附る女人の六欲心生とそこれぬ極女まこと

第三回一心五回王

全部三巻

附る沐の縁だぬ縁ぞう件者の紀ぞうこの切を花の蕾

第三回浅機悔の翌酒紀お私こそ緒派貞女の

第三番右の男八義世女れて多愛逢乃ふとこと

交道旅切者

全部二巻

附る左の方八義乃方八眠乃方の位雛稜乃さるくこと

右追付出し中作中絵

アヤトハ

中陽文業勝板

文四州蔵